

2021 年度 GLC 事業重点項目 6

「YGU 全学横断型 Can-do プロジェクト」成果報告書

## 国際共修のための語学教育

アカデミックな場面への参加を可能にする日本語授業の CAN-DO リスト 2021

2022 年 3 月

山梨学院大学

グローバルラーニングセンター

# 目次

1. はじめに.....	2
2. GLC 日本語プログラム開発過程（～2021 年度） .....	4
2.1. はじめに.....	4
2.2. GLC 日本語プログラム開発過程 1：日本語カリキュラムの改編.....	4
2.3. GLC 日本語プログラム開発過程 2：科目内容の洗練化 .....	6
3. Can-do リスト 2021 .....	9
3.1. Can-do リスト 2021 の概要.....	9
3.2. 授業活動別 Can-do リスト 2021 .....	11
3.2.1. 目的 .....	11
3.2.2. 作成の経緯 .....	11
3.2.3. Can-do リスト.....	12
3.2.4. 共有対象及び今後の展開構想 .....	14
3.3. GLC（日本語）基礎学修力 Can-do リスト 2021.....	16
3.3.1. 目的 .....	16
3.3.2. 作成の経緯 .....	16
3.3.3. Can-do リスト.....	17
3.3.4. 共有対象及び今後の展開構想 .....	20
3.4. 基礎技能系 Can-do リスト 2021 .....	21
3.4.1. 目的 .....	21
3.4.2. 作成の経緯 .....	21
3.4.3. Can-do リスト.....	23
3.4.4. 共有対象及び今後の展開構想 .....	27
3.5. アカデミック・コンピテンス Can-do リスト 2021 .....	28
3.5.1. 目的と定義 .....	28
3.5.2. 作成の経緯 .....	29
3.5.3. Can-do リスト.....	31
3.5.4. 共有対象及び今後の展開構想 .....	34
4. まとめと今後の展望 .....	36
巻末資料 1. 基礎演習 I・II 履修留学生対象アンケート・結果まとめ.....	38
巻末資料 2. 日本語力 自己評価シート.....	50
巻末資料 3. 日本語 I・II（A レベル）チェックリスト.....	54
巻末資料 4. 技能系科目シラバス・ルーブリック .....	61
執筆者紹介.....	67

## 1. はじめに

本報告書「国際共修のための語学教育：アカデミック場面への参加を可能にする日本語授業の Can-do リスト」は、山梨学院大学（以下 YGU）グローバルラーニングセンター（以下 GLC）2021 年度事業計画重要項目 6「YGU 全学横断型 Can-do プロジェクト」の成果を報告するものである。「YGU 全学横断型 Can-do プロジェクト」（以下 Can-do プロジェクト）は、GLC 日本語セクション<sup>1)</sup>（以下 GLC-J）内の有志常勤教員により、2020 年度に立ち上げられた。発足の背景として、2019 年度における留学生受け入れ数の急増がある。4 月入学の留学生数を比較すると、アスリート留学生を除く 3 学部（法学部、経営学部、スポーツ科学部）の合計が、2018 年度は 28 名だったのに対し、2019 年度は 100 名と、3.5 倍程度になった。この急増の影響は、学内において留学生教育の中心的役割を担う GLC-J を直撃することとなり、同時に留学生の所属する学部や留学生に関連する事務組織との連携体制が未整備である事実も露呈させた。こうした状況の下、Can-do プロジェクトは、(1) YGU における二大ビジョンの一つである「全学的国際化」<sup>2)</sup>を推進する上で欠かせない全学教職員の国際化を実務レベルで促進すること、(2) 中規模大学の特徴を生かし、部署間横断連携のもと、留学生がキャンパス内で学生生活を円滑に送れる支援環境づくりを強化すること、の二つを目的に掲げ、持続可能な国際化推進システムを現場レベルで構築・浸透させることを目指すこととした。当初の計画では、留学生がキャンパス内で遭遇する日本語使用場面（例：授業、事務窓口）において必要とされる言語行動を Can-do statements<sup>3)</sup>（「～ができる」という形で示された記述文）として可視化し、キャンパス内場面別、学部授業別に整理し、全学横断的に共有することを目指し、各学部や事務組織にアンケートやインタビュー調査を行う予定であった。しかしながらこれらの計画は、2020～2021 年度の新型コロナウイルス感染症の影響により変更を余儀なくされた。最大の理由は、留学生に対する教職員の対面機会が激減したことである。留学生に接する機会がないと、現場で具体的な課題を認識することが困難となり、アンケートやインタビューを実施しても、問題点等が反映されにくい恐れがあり<sup>4)</sup>、調査は時期尚早であると判断された。また、この間学内の留学生を含む学生支援体制作りが強化され始め、部署間連携の動きも増えてきたため、Can-do プロジェクトが率先して部署間連携の推進を担う必要性が減少したこともある。そこで GLC-J では、Can-do プロジェクトを「Can-do statements を用いて課題を可視化・共有することにより、YGU 全学的国際化に関する大小様々な課題を解決するためのプロジェクト」と捉え直し、日本語プログラムの課題自体を扱うこととし、その最初の課題を「GLC 日本語プログラム開発」に定めた。この背景には、前述の留学生急増に伴う「数」への対応が急務となったことがあるが、単に数に対応するだけでなく、同時に日本語カリキュラム改編に始まる日本語教育の「質」転換を推進するという強い意志があった。

本報告書で報告するのは、YGU に特徴的な日本語コース開発に向けた 2020～2021 年度の取り組み成果である。GLC は、教育目標である「多様な背景を持つ人たちと、母語や母語以外の言語で、目的に応じた意思疎通ができる」のもと、国際系科目群として国際共修と語学（英語・日本語・中国語）科目を提供している。語学教育では、大学内の全ての環境下で日本人学生と留学生が共に学ぶ、即ち国際共修のための言語教育を念頭に置く。国際共修と語学教育が

相乗的且つ相互補完的な関係となっている点が GLC の特徴であり、それを象徴的に表現したのが「国際共修のための語学教育」で、本報告書のタイトルにも示されている。留学生にとっての国際共修の場面は、授業や授業外の活動、また学外での諸活動と多岐にわたるが、GLC-J は最優先で探究すべき場面をアカデミック場面に据えた。アカデミック場面は主に授業を想定するが、教員との面談・やりとりや事務窓口での問い合わせ等、留学生がキャンパス内で日本語でのコミュニケーションを必要とするフォーマルな場面全般を含める。こうしたアカデミック場面で、留学生が前述の GLC 教育目標である「目的に応じた意思疎通」が行えるようにすること、それを可能にする日本語プログラムを開発・提供し続けるのが GLC-J の果たすべき役割である。

本報告書での Can-do リストとは、各テーマの担当者が中心となり、Can-do statements 群を担当者自身とプロジェクトメンバー間で推敲し、合意にまで至った Can-do statements の項目別リストを指す。こうしてリスト化・可視化することにより、日本語担当教員、留学生、学内関係者と、大小様々なレベルで日本語教育の目的と目標を共有することが可能となる。こうした過程を経て効果的な日本語プログラムに鍛え上げていくことが、Can-do リスト作成の目的である。

以下、本報告書では、第2章で、GLC 日本語プログラム開発について説明する。第3章では、本報告書で対象とするアカデミック場面と他のテーマについて詳述した後、四つの Can-do リストを報告する。第4章ではまとめと今後の展望を示し、巻末資料として、Can-do リストの前段階として参照した「基礎演習 I・II 履修留学生対象アンケート・結果まとめ」及び「日本語力自己評価シート」、Can-do リストの授業への応用実践例である「日本語 I・IIA レベルチェックリスト」、そして Can-do リストの次の応用ステップである「技能系科目シラバス・ルーブリック」を掲載する。

## 注

- 1) 日本語担当教員の他、国際共修（日本語）担当教員も含む。
- 2) もう一つのビジョンは、「教育の質的転換」である。
- 3) 語学教育の分野では、Council of Europe(2001)の「Common European Framework of Reference for Languages (ヨーロッパ言語共通参照枠)」(通称 CEFR)における illustrative descriptors (例示的能力記述文)と同義で用いられることも多いが、本プロジェクトでは、語学教育への応用に限定せず、広くキャンパス内の課題を可視化し共有するためのツールとして、より広範な課題解決に向けた手段として、Can-do statements を捉えている。
- 4) 留学生に対する意識の高いと思われる教員にパイロットインタビューを行ったところ、具体的な課題等は表明されず、留学生についてまずは知りたいという意識が確認された。

## 参考文献

Council of Europe (2001). *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching, Assessment*. Cambridge: Cambridge University Press. <https://rm.coe.int/1680459f97> (2022年3月15日)

文責：齊藤眞美

## 2. GLC 日本語プログラム開発過程（～2021 年度）

### 2.1. はじめに

2021 年度現在、グローバルラーニングセンター（以下 GLC）では、法学部、経営学部、スポーツ科学部在籍の留学生に対する日本語教育を行っている。GLC の日本語教育の目的は、「日本語を母語としない学生が、複言語（母語＋日本語）使用者として、自身の目標達成に必要な日本語力をつけるための、専門的支援を行う」ことである。「専門的支援を行う」ための重要な課題の一つは、YGU に入学する留学生の特徴に対応した日本語プログラムを提供することであり、その開発のための一手段が本 Can-do プロジェクトである。また前章で述べたとおり、GLC 日本語プログラムの課題は、留学生急増に伴う「数」への対応と、日本語教育の「質」転換を同時に行うことであった。GLC 日本語プログラム開発は、日本語教育の質転換の意味合いも持つ。

本章では、2021 年度までの GLC 日本語プログラム開発過程について、二つのステップに分け、それぞれに目指したことを述べる。第 1 ステップは、新日本語カリキュラムを策定し、大学全体の教育課程体系の中に日本語科目を新たに位置づけることであった。これにより、教育課程における枠組みであるカリキュラムが確定した。第 2 ステップでは、第 1 ステップで確定したカリキュラムの中身である各科目を洗練化させていくことを目指している。洗練化とは、ここではシラバスの整備と各科目間及びレベル間のアーティキュレーション<sup>1</sup>整備を意味する。本報告書では、アーティキュレーションを日本語科目間の相互関連性という意味で用い、次章 3.4. で再び触れる。なお本報告書は、2021 年度に実施した第 2 ステップの進捗成果について報告するものである（第 3 章）が、その前に、第 1 ステップについても触れておく。

### 2.2. GLC 日本語プログラム開発過程 1：日本語カリキュラムの改編

GLC 日本語セクションでは、2019 年度に新日本語カリキュラムを策定し、2020 年度より運用を開始した。この改編のポイントは以下の 5 点に集約される。①目的別に各科目の位置づけを明確にしたこと、②レベル別呼称（A～C）の使用を開始したこと、③従来の正課外科目（補講の位置づけ）を廃止し、正課科目として新設したこと（日本語文法、日本語コミュニケーション、日本語語彙）、④資格取得支援強化のため、該当科目を拡充したこと（実用日本語）、⑤出口支援強化のため、該当科目を拡充したこと（アカデミック日本語、キャリア日本語）である。2021 年現在の開講科目は表 1 の通りである。

留学生は入学時に行われる日本語クラス分けテスト（筆記試験と口頭試験）により、A、B、C の 3 つのレベルに分けられる。A は学部の授業受講に支障のないレベル、B は学部の授業受講にやや支障のあるレベル、C は学部の授業受講に支障のあるレベルである<sup>2</sup>。留学生の多くが中国語圏出身<sup>3</sup>で、漢字の意味理解はできても、学部授業で求められる聴解力、文章表現力、口頭表現力等に課題を抱える留学生が多い。レベル別の割合は、2021 年度 4 月の新入留学生のケースでは、A が 15～20%、B が 20～30%、C が 50～60% となり、C レベルが半数以上を占める。こうした事情から、レベルに応じた科目設置が必要とな

り、中でも半数以上を占め、学部の授業受講に支障のある C レベルへの対応が喫緊の課題であった。

表 1 目的・レベル別 GLC 日本語科目一覧

目的	必修、他	レベル	科目			
総合日本語	必修	A	日本語 I	日本語 II	※ 全員一律履修	
		B				
		C				
補習強化	指定	B	日本語特講 I	日本語特講 II	※ 日本語 I・II の補習・強化的位置づけ	
		C				
	指定 (選択)	C	日本語文法	日本語コミュニケーション	日本語語彙	※ 3科目から2科目を選択
資格支援	指定/選択	(C)	実用日本語 I A	実用日本語 I B	※ JLPT N2対策	
	選択	(A)	実用日本語 II A	実用日本語 II B	※ JLPT N1対策	
出口支援	選択	(A)	アカデミック日本語 I A	アカデミック日本語 I B	アカデミック日本語 II A	アカデミック日本語 II B
	選択	(A)	キャリア日本語 I A	キャリア日本語 I B	キャリア日本語 II A	キャリア日本語 II B

日本語科目は 4 つの目的別に設置されている。即ち 4 技能を総合的に伸ばすことを目的とした「総合日本語」、B・C レベルを対象とした「補習強化」、日本語能力試験合格或いは日本語能力試験内容の運用力強化を目指す「資格支援」、そして卒業後の進路を見据えた「出口支援」である。「総合日本語」の科目は日本語 I・II (週に 2 コマ) で、全員一律必修となっている。「補習強化」の科目には、日本語特講 I・II (週に 2 コマ)、及び日本語文法・日本語コミュニケーション・日本語語彙 (週に 1 コマずつ) があり、日本語特講 I・II は B・C 両レベルが「指定科目」として、日本語文法・日本語コミュニケーション・日本語語彙は C レベルが 3 科目のうち 2 科目を「指定 (選択) 科目」として、受講することになっている。「資格支援」の科目としては、実用日本語 IA/B (日本語能力試験 N2 レベル) 及び実用日本語 IIA/B (日本語能力試験 N1 レベル) が、それぞれ週に 2 コマ開講されている。資格支援科目は、選択科目として誰もが履修可能であるが、C レベルの留学生にとっては、「指定科目」となっている。「出口支援」科目には、卒業後大学院進学を目指す留学生のためのアカデミック日本語 IA/B・IIA/B、卒業後日本での就職を希望する留学生のためのキャリア日本語 IA/B・IIA/B が、開講されている (それぞれ週に 1 コマ) 4)。

以上の履修イメージをまとめると、図 2 のようになる。

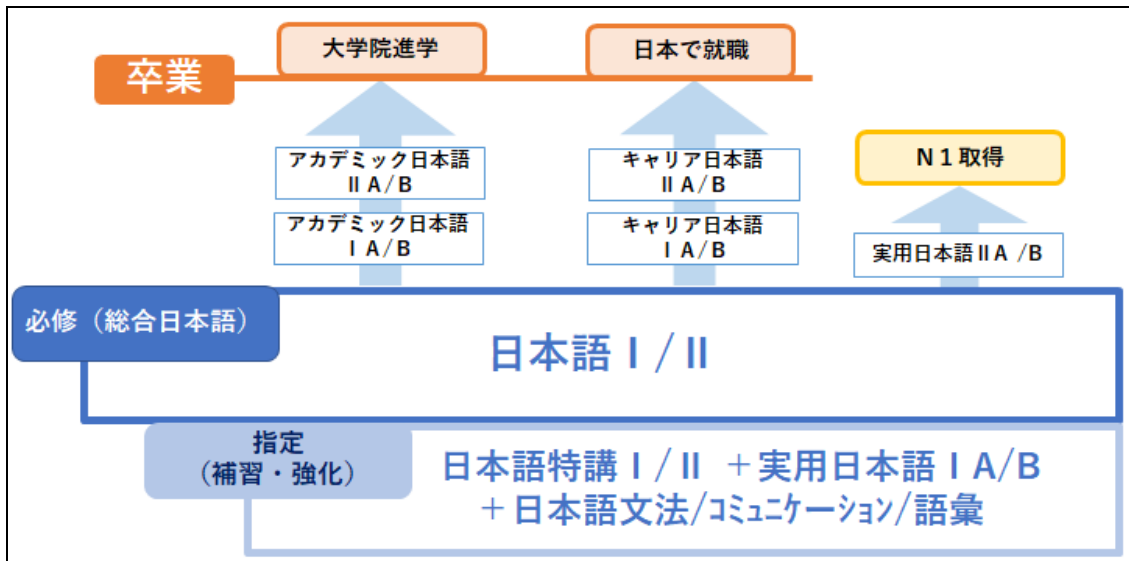


図2 GLC 日本語科目の履修イメージ

第1学期目に最低履修しなければならない、或いは履修を推奨されている日本語科目の単位数はレベルによって異なり、それぞれAレベルが2単位、Bレベルが4単位、Cレベルが8単位となる。これらの科目提供を通じ、留学生の学部授業受講における支障を少しでも軽減することが、日本語科目に求められる役割である。

### 2.3. GLC 日本語プログラム開発過程 2：科目内容の洗練化

図3は、レベル別に履修可能な日本語科目を示したものである<sup>5)</sup>。

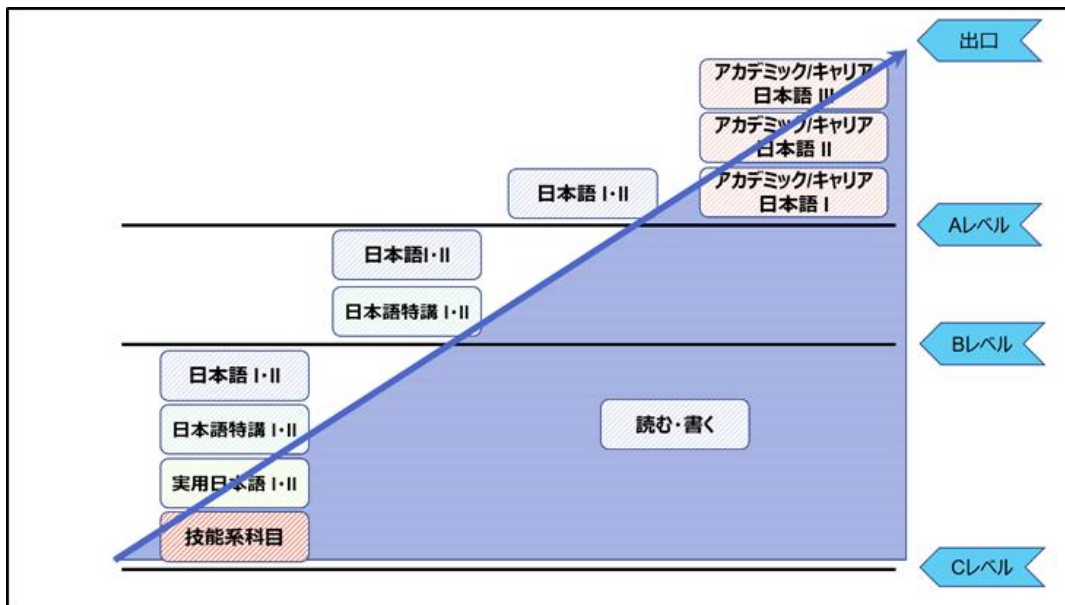


図3 レベル別日本語科目

これらの科目のうち、2021年度は日本語I・II (Aレベルのみ)<sup>6)</sup> (次章3.2.参照)、技能

系科目（日本語文法・日本語コミュニケーション・日本語語彙）（次章 3.3.参照）、全レベルに関わる「読む・書く」（次章 3.5.参照）に取り組んだ。日本語I・II（A レベル）に取り組んだ理由は、この科目が出口支援につなげる際の必修科目として、重要な意味を持つためである。技能系科目（C レベル）に取り組んだのは、新入留学生の半数を越すこのC レベルにおいて、実用的な日本語の基礎力固めを行う必要性が大いに認められるものの、いわゆるオーソドックスなプログラム設計では効果が得られないという現実と直面したためである。オーソドックスな日本語プログラムとは、①日本語能力試験に基づくレベル設定、②4 技能総合科目や4 技能の目的別科目（「読解」「聴解」「口頭表現」「ライティング」等）設置、③教科書の選定、④教科書に基づいたシラバス作成を経て教育実践を行うようなプログラムを想定している。GLC 日本語プログラムも日本語カリキュラム改編後はオーソドックスな科目内容に近い状態で開始したが、前述のとおり、期待される効果に結びつかないという現実と直面し、科目内容の開発の必要性が重要な課題として教員間で共有された。「読む・書く」に関しては、入口（入学時）における現実を踏まえ、出口（大学院進学）までの間にどこまでを目指すかという観点から、整理することとした。日本語以外の学部授業を入学と同時に受講する留学生にとって、「読む・書く」は、授業時間外の課題として与えられることが多いが、唯一日本語科目だけが留学生の能力に合った指導が可能であることから、YGU 留学生のレベルに対応した段階に整理することにより目標を可視化し、共有することで他科目とのアーティキュレーション整備の元となることを目指した。なお、「聞く・話す」については、授業時間内に求められる技能であるため、授業活動の点から扱うこととした（次章 3.2.参照）。

## 注

- 1) アーティキュレーションの源義や、第二言語習得・言語教育の分野での概念化や適用については、宮崎（2013）を参照。本報告書も日本語プログラムへの適用の一例と位置づけられる。
- 2) 入学試験では、日本語能力試験 N2 相当が求められており、「思考力」「日本語基礎能力」「面接」の3項目により判定される。
- 3) アスリート留学生を除く 2021 年度 4 月入学留学生の国籍は、中国 138 名、ベトナム 5 名、台湾と韓国が各 1 名で、中国からの留学生が 95%以上を占める。
- 4) 「アカデミック日本語IA/B・IIA/B」及び「キャリア日本語IA/B・IIA/B」は、2021 年度までは他の日本語科目同様週 1 回の授業あたり 1 単位科目であったが、2022 年度より 2 単位科目となる。「アカデミック日本語III」と「キャリア日本語III」は、2023 年度以降開講予定である。
- 5) 日本語能力試験 N1 対策を主目的とする「実用日本語II」（選択科目）は図 3 に含めていない。
- 6) 日本語I・II（A レベル）の取り組み詳細については、河野（2022）を参照。

## 参考文献

河野 礼実（2022）初年次留学生を対象とした大学密着型日本語科目の取り組み 国際共修・語学教育実践、創刊号,5-12.



宮崎 聡 (2013) グローバルレベルと市民レベルで協同実践する行為主体者 (アクター) から捉える新たな  
アーティキュレーションの提唱 早稲田大学大学院教職研究科紀要, 5, 29-44.

[https://waseda.repo.nii.ac.jp/?action=repository\\_action\\_common\\_download&item\\_id=10725&item\\_no=1&attribute\\_id=162&file\\_no=1](https://waseda.repo.nii.ac.jp/?action=repository_action_common_download&item_id=10725&item_no=1&attribute_id=162&file_no=1)

文責：齊藤真美

### 3. Can-do リスト 2021

#### 3.1. Can-do リスト 2021 の概要

本報告書では、「①授業活動別 Can-do リスト」(以下 3.2.)「②GLC (日本語) 基礎学修能力 Can-do リスト」(以下 3.3.)「③基礎技能系 (「日本語文法」「日本語コミュニケーション」「日本語語彙」の総称) Can-do リスト」(以下 3.4.)「④アカデミック・コンピテンス Can-do リスト」(以下 3.5.) の4種をまとめ、Can-do リスト 2021 として報告する。

①授業活動別 Can-do リストは、アカデミック場面として典型的且つ汎用的であると考えられる国際共修入門 (講義型、講義・セミナー型、セミナー型) の授業参加に求められる行動を類型化し、それぞれの項目について Can-do リスト化したもので、A レベルの学生が、到達可能域として目指す Can-do リストである。また、このリストが問題なく行えることが「学部の授業受講に支障のないレベル」を具現化・可視化したものであり、同時に B・C レベルの指導においては目指すべき具体的指針ともなる。

②GLC (日本語) 基礎学修力 Can-do リストは、主に C レベルを対象としたものである。GLC (日本語) 基礎学修力は、留学生に対する指導現場、指導経験から表出し、Can-do リストとして可視化することの必要性が教員間で認められたもので、「(日本語) 授業に参加し、学修を効果的に進めていくための土台となる行動習慣」と本報告書では定義づける。いわば、学修以前の、学修に対する姿勢・態度のようなものである。日本語を括弧内に表記したのは、今後 GLC における他の語学授業 (英語及び中国語) や国際共修科目でも同様の試みを行い、留学生に限定せず、日本人学生も含めた形で GLC の科目を履修する際の基礎学修力へと統合する可能性を想定してのことである。

③基礎技能系 Can-do リストも C レベルを対象としたものである。第2章で述べた通り、「半数以上を占め、学部の授業受講に支障のある C レベルへの対応が喫緊の課題」であり、中でも基礎技能系科目の開発を最優先させる必要性があった。それは、日本語カリキュラム改編で、従来の正課外科目 (補講の位置づけ) を廃止し、基礎技能系科目を正課科目として新設したため、それに見合った効果を上げることが求められたためである。C レベルの学生は、既に入学前に 1.5 年～2 年程度の日本語学修歴を有する学生が多いが、到達度から見ると、スローラーナー (slow learner) であること、学修方法と習慣が身につけていないのがその原因であると同時に結果であるという特徴があった。これらの学生に対し、これまでのようなオーソドックスなアプローチで教育を繰り返してもあまり効果が見られなかったという過去の経緯があり、且つ、市販の教材 (既に入学前に使用していたというものも少なくない) では興味関心を引くことすら困難で、抜本的な見直しが求められた。このような事情から、緊急度が高い基礎技能系科目については、Can-do リストの作成を早急に進め、Can-do リストを 2022 年度のシラバス・ルーブリック改善の際に反映させるところにまで至っている。また、教材に関しても、大学に申請した企画「留学生日本語力補強：日本語力に課題を抱える本学留学生のための教材開発」が承認されたため、基礎技能系 Can-do リスト→シラバス・評価ルーブリック改善→教材化という一連の流れに先鞭をつける形となった。本報告書では、日本語文法、日本語コミュニケーション、日本語文法

それぞれの Can-do リストを提示し、2022 年度のシラバス・ルーブリックへの反映状況までを報告する。

④アカデミック・コンピテンス Can-do リストは、上記①～③の、あるレベルに関連するリストとは切り口が異なるもので、留学生の入学時から卒業時までの「読む・書く」能力を整理し、段階的に示したものである。「卒業時」には、日本の大学院進学を目指す留学生にとっての「出口」の意味も含むため、目指すレベルは、特定の留学生を対象とした、高度なレベルとなる。また、いわゆるアカデミック・スキルでは通常中心的に扱われることの少ない、「読む・書く」際に必要とされる「思考力」も重視する点に、アカデミック・コンピテンス Can-do リストの特徴がある。

以下、それぞれの Can-do リストについて、①何のための Can-do リストか（目的）、②のような過程を経てリスト化されたか（作成の経緯）、③Can-do リスト、④誰/どことの共有を意図したものか（共有対象）及び今後どのように活用するか（今後の展開構想）の順で報告する。

#### 注

- 1) 国際共修入門は、2021 年度に新規開講した科目で、留学生が多く在籍する経営学部の 1 年生全員が履修することになっている。国際共修の促進を推奨する本学において、今後の 4 年間で国際共修という学びのスタイルを当たり前とするための入門的な位置づけある。国際共修入門には、「セミナー型」「講義・セミナー型」「講義型」の 3 種類があり、1 学年 300 人程度の新生を希望（日本人学生）と日本語能力（留学生）により三つのタイプに振り分け、クラスを指定する。2021 年度は、「セミナー型」（1 クラス 20 名程度）が 4 クラス、「講義・セミナー型」（1 クラス 40 名程度）が 4 クラス、「講義型」（残り全て）が 1 クラスであった。

文責：齊藤眞美

## 3.2. 授業活動別 Can-do リスト 2021

### 3.2.1. 目的

前述の通り、授業活動別 Can-do リスト作成の目的は、A レベルを示す「学部の授業受講に支障のないレベル」を具現化・可視化することで、A レベルの学生にとっては、到達可能域として、B・C レベルの学生にとっては到達目標を具体的に示す指針ともなる。

本報告で具体的に想定する授業科目である「国際共修入門」とは、2021 年度に新規開講した科目で、留学生が多く在籍する経営学部の1年生全員が履修する。国際共修の促進を推奨する本学において、今後の4年間で国際共修という学びのスタイルを当たり前の状態とするための入門的な位置づけで、国際共修科目体系上の目標は「国際共修を学ぶ」である。 「国際共修入門」には、「セミナー型」「講義・セミナー型」「講義型」の3種類があり、1学年300人程度の新入生を希望（日本人学生）と日本語能力（留学生）により、3つのタイプに振り分け、クラスを指定する。2021年度は、「セミナー型」が2クラス、「講義・セミナー型」が4クラス、「講義型」が1クラスであった。

本報告書では、この授業に参加するために必要な行動を、留学生の視点から、やりとりの方向性（一方向的か、双方向的か）、観察可能な形で従事している行動（聞く、話す）のマトリックスで整理し、活動領域ごとに「説明・指示の理解」「発表」「ペアワーク・グループワーク」とした。

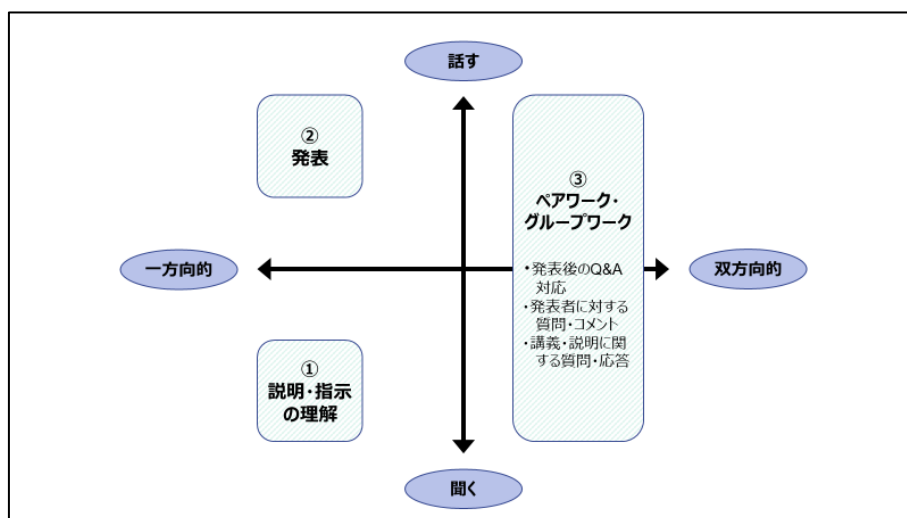


図1 留学生指導のための授業活動の類型

### 3.2.2. 作成の経緯

初年次の留学生が「国際共修入門」をはじめとした総合基礎教育科目の授業活動に参加するうえで求められる言語行動とその能力を表す Can-do リストを検討するうえで、まずはこれまでの教育実践から材料を収集した。具体的には、2019 年度「基礎演習 I・II 履修留学生対象アンケート」の結果（巻末資料 1）、2020 年度に日本語科目で導入した「日本語力 自己評価シート」の評価項目（巻末資料 2）と学生の自由記述が主な材料となった。これらをベースとして作成したリストから授業内活動に関わる Can-do を抽出した。

そこで抽出された Can-do をもとに、2021 年度「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」A レベルの授業実践において授業内で活用可能なレベルにまで精緻化した。上記 2 科目は複数のユニットで構成されており、そのユニットごとにチェックリストが設けられている。チェックリストは「～できる」の能力記述文の形式となっており、項目内容は山梨学院大学に入学した留学生が日本語科目以外でも実践的に学べる力を身につけるために必要な力を想定している。

報告者は 2021 年度、上述した「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」A レベルの授業実践に携わるとともに、「国際共修入門」（講義・セミナー型）の授業も担当した。そこで、「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」のチェックリストとその草案となった Can-do リストをもとに、「国際共修入門」をはじめとする総合基礎教育科目の授業活動に参加するうえで必要となる言語行動を整理し、「説明・指示の理解」「発表」「ペアワーク・グループワーク」の活動領域別に Can-do リストを作成した。

### 3.2.3. Can-do リスト

次ページに「授業活動別 Can-do リスト 2021」を示す。「説明・指示の理解」「発表」は、マトリックス上では「一方向的」に分類される 2 つの活動領域であるが、そこから派生する（あるいはそれに関連する）双方向的な言語行動として、派生言語行動「説明や指示を聞いて、反応することができる」「発表の聞き手として」という項目を設け、整理した。

## 授業活動別 Can-do リスト 2021

説明・指示の理解			
1	教師の指示や説明を理解することができる。	1	教師の指示や説明を正確に理解し、適切に行動できる。
2	講義を聞き、内容を理解することができる。	1	関心あるテーマの講義や講演を聞いて、だいたいの内容が理解できる。
		2	背景知識を持っていない、よく知らない内容の話でも、意味を推測して理解することができる。
		3	知らない言葉があっても、前後の内容から意味を補足して、内容を理解することができる。
説明・指示の理解 派生言語行動			
1	説明や指示を聞いて、反応することができる。	1	理解不能な部分を書き取り、教員やクラスメイトに確認を求めることができる。
		2	講義を聞いて、内容に関する質問に答えることができる。
		3	講義で聞いた内容について、自分の意見や感想を話すことができる。

発表			
1	他の学生の前で発表することができる。	1	発表内容を簡潔に分かりやすくまとめた、レジュメ・資料を作ることができる。
		2	聴衆にとって分かりやすいスライド資料（パワーポイント）を作成することができる。
		3	レジュメやパワーポイントなどの資料を示しながら、プレゼンテーションができる。
		4	発表で自分が伝えたいことを伝えることができる。
		5	新しく得た情報や知識を理解したうえで、その内容を他者に説明することができる。
		6	調べた情報を整理して、相手に伝えることができる。
		7	準備したスクリプトを、漢字語彙の読みかたや発音などを間違えずに正しく読み、情報伝達ができる。
		8	自信を持って堂々と発表することができる。
		9	グループワーク・ディスカッションの内容をクラス全体に伝えることができる。（代表発表ができる。）
発表 派生言語行動：発表の聞き手として			
1	発表後の質疑応答やコメントができる。	1	発表に対して質問・コメントすることができる。
		2	他者の発表に対し、適切にコメントを書くことができる。
		3	発表後の質疑応答で質問することができる。
		4	発表を聞いて、感想やコメントを相手に伝えることができる。（※伝え方に注意しながら）

ペアワーク・グループワーク			
1	積極的な態度で話し合いに参加できる。	1	話の聞きかたのマナー（相手の話をしっかり聞こうとする態度）を意識して、話を聞くことができる。 ＜例＞ 相手の目を見て聞く、体をその人のほうに向ける、あいづち・うなずき、内容確認発話 など
		2	積極的聞き手として、ディスカッションなどのコミュニケーションに参加できる。
		3	積極的にグループワークに参加し、自分の意見や考えを伝えることができる。
		4	他者に促されるまで話さないという受身の姿勢ではなく、自分から話を切り出すことができる。
		5	グループワークの際、相手の気持ちに配慮した言動をとることができる。
		6	発表会やディスカッションの際、主体的に、楽しんで関わろうとする姿勢を持って参加することができる。
		7	他者と協働して課題を遂行することができる。
2	他者の話が理解できる。	1	他者の話している内容を理解できる。
		2	他者の話で不明な点を質問したり確かめたりすることができる。
		3	相手の発表や発言を聞いて、質問することができる。
3	他者に言いたいことを伝えることができる。	1	恥ずかしがらずに話すことができる。
		2	他者に理解可能な日本語で、言いたいことを伝えることができる。
		3	自分の意思や考えを相手に分かりやすく伝えることができる。
		4	知らない語彙を他の表現に置き換えて話すことができる。
		5	他者の意見を聞き、理解した上で、それに対する自分の考えを話すことができる。

### 3.2.4. 共有対象及び今後の展開構想

「授業活動別 Can-do リスト 2021」は、グローバルラーニングセンター（以下 GLC）教員（日本語セクションおよび国際共修セクション）と学部教員が共有の対象となる。

まず、GLC の日本語科目担当教員内に共有することで、日本語科目以外の授業で留学生たちはどのような力が求められているのか、すなわち日本語科目でどのような力を育成する必要があるのかについて、教員間で共通理解を持てるようにする。その理解のもと、各授業（特に「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」「日本語特講Ⅰ」「日本語特講Ⅱ」）での効果的な活用を促進していく。

また、GLC 国際共修科目担当教員にとっても、このリストを通して留学生が日本人学生との授業活動で抱える課題に関し、把握することが可能となる。こうした把握と共通理解のもと、まずは初年次科目である「国際共修入門」での留学生教育に活用が期待される。

さらに GLC 外でも、留学生が所属する学部の教員に対しては FD 等で共有することを想定している。本リストを用い、留学生が授業活動に参加するうえで抱える課題をより段階的かつ具体的に示すことで、留学生が抱える課題に関して理解・認識を促進していき、

学部・GLC と共同で課題解決に取り組んでいきたい。

#### 注

- 1) 詳細は、トンプソン・原 (2022) を参照。

#### 参考文献

トンプソン 美恵子・原 百年 (2022). 国際共修 (日本語) を知る 国際共修・語学教育実践, 創刊号, 57-60.

文責：齊藤眞美 (3.2.1)

河野礼実 (3.2.2, 3.2.3, 3.2.4)



### 3.3. GLC（日本語）基礎学修力 Can-do リスト 2021

#### 3.3.1. 目的

「GLC（日本語）基礎学修力 Can-do リスト 2021」の作成目的は、大学で学修を進めていくうえで土台となる事柄を可視化することで、学生の問題点と解決すべきことを明確にし、日頃の学生指導や授業活動に活かしていくことである。

グローバルラーニングセンター（以下 GLC）の日本語プログラムにおける C レベルの指導経験から、通常の Can-do リスト等で明示されない、それ以前の何かがあるのではないかという認識が、プロジェクトメンバーの教員間で共有されていた。これは、聴解力云々の前にそもそも話している人に注意が向かない、読む以前にそもそもそのための教材を持ってこない、授業参加以前にそもそも大学に来ない、等々で、プロジェクトメンバー間では「隠れ Can-do」や「そもそも Can-do」などと呼んでいたが、「GLC（日本語）基礎学修力」に統一した。GLC（日本語）基礎学修力の欠如は C レベルに限られたことではなく、また C レベルのどの学生にも共通することでもないが、少なくとも C レベルに顕著に認められた傾向であった。C レベルの日本語力向上は、この GLC（日本語）基礎学修力への対処なくして決してなし得ないであろうとの判断から、C レベルへの対応は、学修内容と GLC（日本語）基礎学修力をセットとし、両面から問題解決を図ることとした。学修内容の課題は次節（3.4.）③基礎技能系 Can-do リストで扱う。

GLC（日本語）基礎学修力は、学修に対する姿勢・態度を指し、図 2 のように、日本語学修を成立させるための隠れた暗黙条件のようなイメージである。

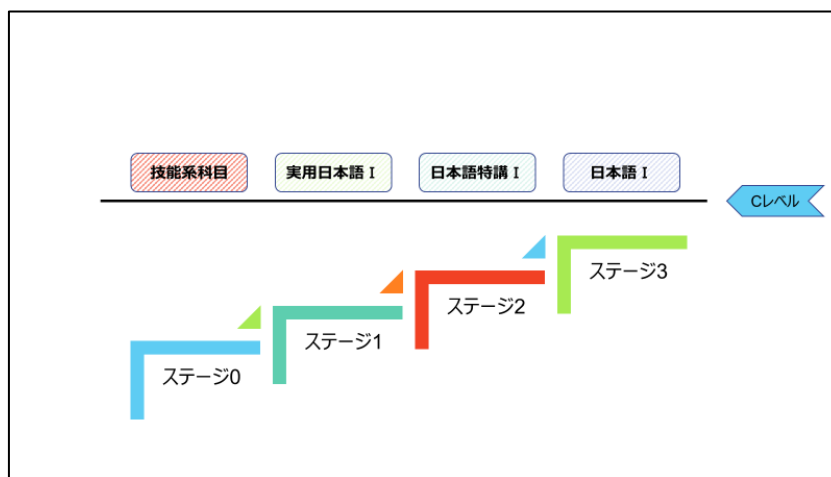


図 2 GLC（日本語）基礎学修力のイメージ図

#### 3.3.2. 作成の経緯

報告者は C レベルの授業を担当した際に、きちんと授業に出席し、授業の課題を把握して締切を守って提出することができない学生が一定数以上いることに驚いた。そこで、授業などで学生と接する際に、「今、できないこと」「できるようになってほしいこと」を考え、整理した。それを基に、2021 年度後期に C レベルにおいて、合同授業を実施し、学習者の母語で「大学と高校の違い」や「大学で成績が持つ意味」、「成績がどのように算出さ

れるか」などについて、学生とやりとりしながら確認していく活動を取り入れた。合同授業での実践を通して、「そもそも何ができないのか」「何ができるようにならないといけないのか」「できるようになるためには、どのようなアクションが必要なのか」を明示していくことの重要性を痛感した。

以上の問題意識で、Cレベルの学習者が大学での学修を進めていくうえで、土台となる基礎学修力を整理し、ステージ0からステージ3に分けて「GLC（日本語）基礎学修力 Can-do リスト 2021」（以下、GLC（日本語）基礎学修力 Can-do リスト）を作成した。なお、「GLC（日本語）基礎学修力 Can-do リスト」は、報告者が担当した「日本語 I・II」「日本語特講 I・II」「日本語語彙」「実用日本語 IA・IB」等での実践経験から得られた気づきに基づき、報告者が整理したものである。そして、本プロジェクトメンバーと議論を重ねた上で、最終版を完成させた。

### 3.3.3. Can-do リスト

「GLC（日本語）基礎学修力の Can-do リスト」は、「授業参加」「LMS・メール」「履修登録」「授業の課題提出」「成績評価」の5つの項目で構成されている。「授業参加」を「出席する」「受動的な参加」「参加」「積極参加」に分け、ステージ0からステージ3に分類した。また、「LMS・メール」を「アクセス」「内容確認」「対応」に分けてステージ1からステージ3に、「履修登録」を「必要性の理解」「登録」に分けてステージ1とステージ2に分類した。さらに、「授業の課題」を「提出」「指示理解・課題管理」に分けてステージ2とステージ3に、「成績評価」をステージ3に分類した。

以下、「GLC（日本語）基礎学修力の Can-do 項目別リスト 2021」「GLC（日本語）基礎学修力の Can-do ステージ別リスト 2021」を示す。



<b>授業参加</b>	<b>出席する</b>	<b>受動的な参加</b>	<b>参加</b>	<b>積極参加</b>
	<ol style="list-style-type: none"> <li>正しい教室に行くことができる</li> <li>授業の開始時刻までに教室に行くことができる</li> <li>授業受講に必要なもの(筆記用具など)を持って、授業に出席できる</li> <li>出席する授業に必要な教科書や資料を持って、授業に出席できる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>教員やクラスメートの話を聞くことができる</li> <li>携帯電話で遊ぶなど授業と関係ないことをせずに、授業活動に参加できる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>授業で教員の指示に従うことができる</li> <li>グループワークなどで発言できる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>授業で分からないことをクラスメートや教員に質問することができる</li> <li>グループワークなどの授業活動に積極的に参加できる</li> </ol>
<b>LMS・メール</b>	<b>アクセス</b>	<b>内容確認</b>	<b>対応</b>	
	<ol style="list-style-type: none"> <li>YGU メールや LMS 上の情報の重要性が分かる</li> <li>YGU メールにログインできる</li> <li>LMS にログインできる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>YGU メールを確認し、読むことができる</li> <li>LMS 上で発信されている授業などに関する連絡・指示を確認できる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>YGU メールの内容を理解し、適切に対応することができる</li> <li>LMS 上の連絡・指示を理解し、適切に対応することができる</li> <li>YGU メールや LMS の確認を習慣化できる</li> </ol>	
<b>履修登録</b>	<b>必要性の理解</b>	<b>登録</b>		
	<ol style="list-style-type: none"> <li>大学では、自分で科目を履修登録しなければならないことが理解できる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>自分が履修すべき科目が分かる</li> <li>自分が履修すべき単位数が分かる</li> <li>締切を守って履修登録できる</li> </ol>		
<b>授業の課題提出</b>	<b>提出</b>	<b>指示理解・課題管理</b>		
	<ol style="list-style-type: none"> <li>自分が出さなければならぬ課題が分かる</li> <li>課題提出方法を理解し、提出できる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>課題の指示を正確に把握できる</li> <li>課題提出のために、いつ何をすべきかが理解できる</li> <li>課題を締切を守って提出できる</li> <li>課題管理を習慣化できる</li> </ol>		
<b>成績評価</b>	<b>理解</b>			
	<ol style="list-style-type: none"> <li>授業の課題が成績評価につながる事が分かる</li> <li>成績評価が単位取得につながる事が分かる</li> <li>単位取得が進級や卒業要件となる事が分かる</li> </ol>			

図3 GLC (日本語) 基礎学修力の Can-do 項目別リスト 2021

GLC (日本語) 基礎学修力の Can-do ステージ別リスト 2021

ステージ 0	
1 授業に出席できる	1 正しい教室に行くことができる
	2 授業の開始時刻までに、教室に行くことができる
	3 授業受講に必要なもの(筆記用具など)を持って、授業に出席できる
	4 出席する授業に必要な教科書や資料を持って、授業に出席できる

ステージ 1	
1 授業活動に参加できる	1 教員やクラスメートの話を聞くことができる
	2 携帯電話で遊ぶなど授業と関係ないことをせずに、授業活動に参加できる
2 授業の履修登録が理解できる	1 大学では、自分で科目を履修登録しなければならないことが理解できる
3 YGU メールや LMS にアクセスできる	1 YGU メールや LMS 上の情報の重要性が分かる
	2 YGU メールにログインできる
	3 LMS にログインできる

ステージ 2	
1 教員の指示に従い、授業活動に参加できる	1 授業で教員の指示に従うことができる
	2 グループワークなどで発言できる
2 授業の課題を提出できる	1 自分が出さなければならない課題が分かる
	2 課題提出方法を理解し、提出できる
3 授業の履修登録ができる	1 自分が履修すべき科目が分かる
	2 自分が履修すべき単位数が分かる
	3 締切を守って履修登録できる
4 YGU メールや LMS を確認できる	1 YGU メールを確認し、読むことができる
	2 LMS 上で発信されている授業などに関する連絡・指示を確認できる

ステージ 3	
1 積極的に授業に参加できる	1 授業で分からないことをクラスメートや教員に質問することができる
	2 グループワークなどの授業活動に積極的に参加できる
2 授業課題を締め切りを守って提出できる	1 課題の指示を正確に把握できる
	2 課題提出のために、いつ何をすべきかが理解できる
	3 課題を締め切りを守って提出できる
	4 課題管理を習慣化できる
3 大学の成績評価が分かる	1 授業の課題が成績評価につながる事が分かる
	2 成績評価が単位取得につながる事が分かる
	3 単位取得が進級や卒業要件となる事が分かる
4 YGU メールや LMS を活用できる	1 YGU メールの内容を理解し、適切に対応することができる
	2 LMS 上の連絡・指示を理解し、適切に対応することができる
	3 YGU メールや LMS の確認を習慣化できる

#### 3.3.4. 共有対象及び今後の展開構想

「GLC（日本語）基礎学修力の Can-do リスト」の共有対象は、GLC の日本語セッション（以下 GLC-J）の教員と留学生が所属する学部教員、本学の留学生である。

まず、GLC-J 教員間で共有することにより、担当学生がどのステージにいるのかを焦点化し、担当教員間で共通目標を持って指導できる。また、リストを学生に渡してチェックしてもらうことにより、「自分自身の今のステージ」「今、クリアすべきステージ」「次に目指すステージ」を明確化し、一つ一つのステージをクリアしていく際の達成感を味わってもらいたい。

次に、学部教員に対しては FD 等で共有し、留学生指導に苦しむ学部教員に日本語科目の取り組みを紹介し、共に対処方法を考えて行きたい。また、本学の学生センターと連携し、学習障害との見分けに注意しながら指導することを心掛ける。

文責：齊藤眞美・金桂英（3.3.1）

金桂英（3.3.2, 3.3.3, 3.3.4）

### 3.4. 基礎技能系 Can-do リスト 2021

#### 3.4.1. 目的

基礎技能系 Can-do リスト 2021（以下、基礎技能系 Can-do リスト）作成の大目的は、スローラーナー（slow learner）に対する効果的な日本語プログラムを開発することである。より具体的には、限られた時間の中で、これまで積み上げ損ねた日本語を再構成し、意欲さえあれば自分で学び続けていける自律学修力をつけるまでにすることである。そのために、教授項目を厳選し、重要で身につけるべきことは異なる角度から複数の科目で意図的に扱い、関連づける力を育成し、定着力を高めることをまずは試みることにした。これを可能にするためには、他のレベル以上に、横のアーティキュレーションを効果的に強化することが必要であると同時に、そのための教材が必要となる。この教材作成が中目的となる。教材を効果的に生かすためには、それぞれのシラバスを効果的に組むことと、他の科目とのアーティキュレーションを効果的に設計することが必要である。その元となるのがこの基礎技能系 Can-do リストとなる。

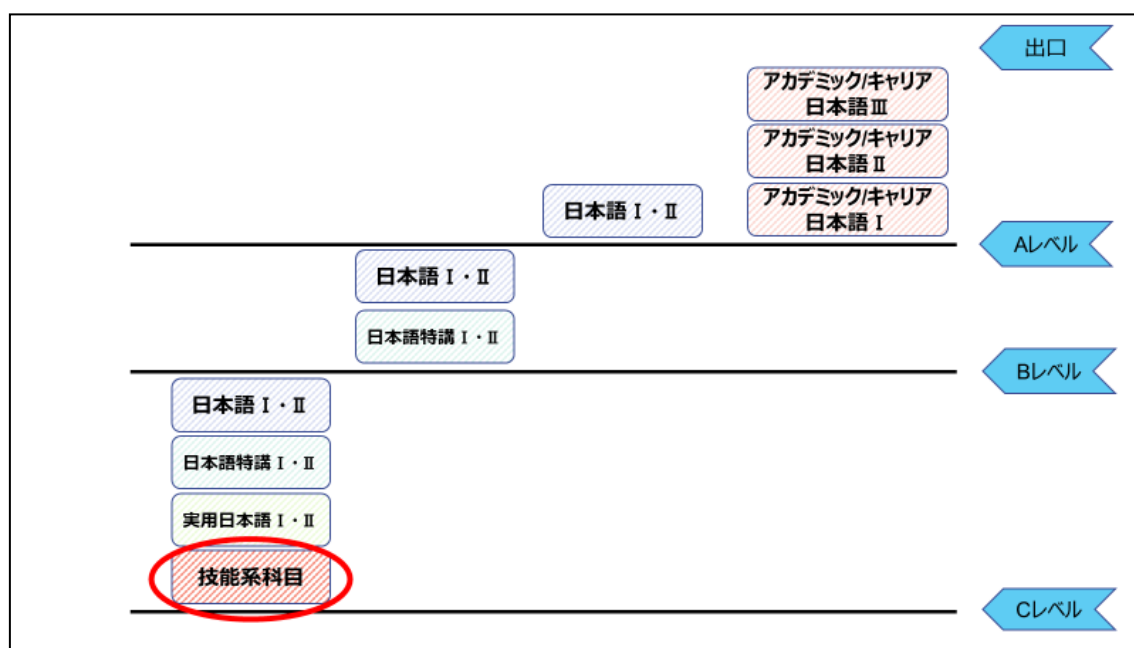


図1 技能系科目の位置づけ

図1の通り、技能系科目はCレベルの学生が履修する4つのカテゴリーのうちの1つである。他の科目とのアーティキュレーションの点からは、技能系科目によって得た「理解」を、特に日本語I、日本語特講Iで「使用」に結びつけることが重要となる。

#### 3.4.2. 作成の経緯

2020年度に新日本語カリキュラムの運用が始まったことにより、日本語カリキュラムに関する課題が、従来の履修の枠組み自体を作ることから、できた枠組みの中でそれぞれの科目内容をよりよいものに洗練化することへとシフトした。科目の洗練化を目指す中でま

ず取り組んだのが、アーティキュレーション（第2章参照）を意識した科目内容の調整である。日本語科目では、A、B、Cレベルという縦のアーティキュレーションと、例えばBレベルの学生が履修する科目である「日本語」と「日本語特講」、また他の選択科目も含めた横並び、つまり横のアーティキュレーションが存在する。この縦横のアーティキュレーションを整えることが、効果的なカリキュラム運用において重要であると考えた。この課題に取り組むための出発点として、まずは各授業で何を目指し、何をしているかを可視化し共有することを目的に、全授業に関し、常勤教員が、それぞれ担当する授業で目指している活動内容をいくつかの項目にまとめ、各項目の詳細を Can-do statements の形で整理し、共有した（2019年度末から2020年度初めにかけて）。表1は、最初のたたき台として報告者が示した「キャリア日本語」の例である。

表1 科目別 Can-do リスト 2020「キャリア日本語」の例

- |  |
|--|
| <p>1. キャリアについて深く考える。→ 自分自身のキャリアイメージを持つ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 情報収集ができる（読む/聞く、考える、調べる⇒リサーチ力）</li> <li><input type="checkbox"/> 収集した情報をまとめることができる（統合力）</li> <li><input type="checkbox"/> まとめたものを他者に伝えることができる（表現力）</li> <li><input type="checkbox"/> 他者の発言に対し、適切に質問・コメント・確認・同意表明・反対表明等を行うことができる<br/>(ディスカッション力)</li> <li><input type="checkbox"/> 他者とのやり取りの中で、適切な表現を用いながら考えを深めあうことができる<br/>(関係調整・構築力)</li> <li><input type="checkbox"/> 内省をすることができる（自己対象化力）</li> </ul> <p>2. キャリアイメージの中で、必要となる能力を特定し、自覚する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 自分にとって必要な能力をリスト化できる（目標特定力）</li> </ul> <p>3. 必要な能力を身に着けるための、具体的な方法を検討し、実践する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 自分の現在の能力を適切に判断・評価できる（自己分析力）</li> <li><input type="checkbox"/> 実行可能な計画を立てることができる（計画力 P）</li> <li><input type="checkbox"/> 自己管理のもと、計画を実施することができる（自己管理力 D）</li> <li><input type="checkbox"/> 計画実施プロセス及び到達度を評価することができる（自己評価力 C）</li> <li><input type="checkbox"/> 計画実施を反省的に振り返り、改善策を考えることができる（循環推進力 A）</li> </ul> <p>4. 特定強化日本語能力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 使い分け：適切な日本語を、場面や目的、対象者に応じ、切り替えて使用することができる</li> <li><input type="checkbox"/> 待遇表現：敬語や授受表現が、適切に使用できる</li> </ul> |
|--|

これら、科目内容を項目別にまとめ、各項目の詳細を Can-do statements を用いて記述したリストを「科目別 Can-do リスト 2020」と呼ぶこととする。この科目別 Can-do リスト 2020 は、2020年度新任常勤教員2名が新鮮な目で確認し、それぞれの科目に対してフィードバックを行い（2022年5月）、全体で共有するという過程を経て終了した。

基礎技能系 Can-do リストは、この科目別 Can-do リスト 2020 における「日本語文法」「日本語コミュニケーション」「日本語語彙」をベースとし、他の科目とのアーティキュレーションを意識し、報告者がまとめたものを、プロジェクトメンバー間で精査したもので

ある。

### 3.4.3. Can-do リスト

以下、日本語文法、日本語コミュニケーション、日本語語彙の順に、基礎技能系 Can-do リストを示す。日本語文法リストの「文法（項目案）」は、報告者が必要と判断した文法項目で、授業担当者にどのように扱うか検討を依頼したものである。

次に、この基礎技能系 Can-do リストを、基礎技能系授業担当コーディネーターが、授業担当教員たちとどのように 2022 年度のシラバス及びルーブリックに反映させたかを報告する。

#### 基礎技能系 Can-do リスト 2021

日本語文法	
1	授業項目の文法的概念が理解できる。
2	文法的理解を使用に関連付けることができる。
3	自身の日本語使用における文法的正誤に注意を払うことができる。
4	自身の日本語使用における文法的正誤を判断し、誤った場合に修正することができる。
5	周囲のリソースを効果的に活用することができる。
(1)	【文法（項目案）】て形
(2)	【文法（項目案）】話し言葉におけるスタイルの違い（フォーマルとカジュアル）
(3)	【文法（項目案）】話し言葉と書き言葉の違い
(4)	【文法（項目案）】名詞修飾と基本的活用（動詞、形容詞、名詞）
(5)	【文法（項目案）】助詞＋自動詞/他動詞
(6)	【文法（項目案）】助詞＋授受表現
(7)	【文法（項目案）】様々な依頼表現に用いる形式
(8)	【文法（項目案）】複文
(9)	【文法（項目案）】接続詞とマーカー



## 日本語コミュニケーション

1	教員やクラスメートの発話に傾聴することができる。
2	発話や文章における文法的誤りが特定できる。
3	発話における発音上の問題が特定できる。
4	発話や文章における文法的誤りを修正することができる。
5	自分の発話における発音上の問題を修正することができる。
6	場面や相手との関係に応じたスタイルの使い分けが必要であることを理解できる。
7	この場面でこの相手とどのようなスタイルを使うべきか判断できる。
8	場面や相手との関係に応じたスタイルの使い分けができていくかどうかを把握できる。
9	場面や相手との関係に応じたスタイルの使い分けが不適切だった場合に、その場で、或いは次の機会に修正することができる。
10	教員との個別な対面コミュニケーションが適切に行える。
11	教員へメールで適切に意志を伝えることができる。
12	発表するために必要な日本語表現の大枠が理解できる。
13	発表するために必要な日本語表現の大枠が使用できる。
14	ディスカッションを行うために必要な日本語表現が理解できる。
15	ディスカッションを行うために必要な日本語表現が使用できる。

## 日本語語彙

1	新しい語を自分で調べることができる。
2	調べた語の読み方を正確に覚えることができる。
3	調べた語の読み方を正確に発音することができる。
4	活動の中で、学んだ語を特定し意味を理解することができる。
5	活動の中で、学んだ語を使用してやりとりを行うことができる。

### 3.4.3.1. 日本語文法の 2022 年度シラバス、ループリック、教室活動への反映<sup>1)</sup>

2021 年度後期終了後に基礎技能系科目担当者による振り返りが行われた。その際、基礎技能系 Can-do リストの「文法的理解を使用に関連付けることができる」ことが不十分であったという内省が挙げられた。2021 年度には「文法的知識を活用し、適切な文章を書くことができる。」という到達目標があったが、「適切な文章」が何を示すのか曖昧であったことが使用のための授業活動へと結びつきにくかったと考えられる。これを受けて、2022 年度は「文法知識を実用的な文章の中で、適切かつ正確に使うことができる」という文言に変更し、基礎的な練習の後に大学生活で出会うであろう使用場面を想定した書くタスクを実施することとした。書く際の材料として、「周囲のリソースを効果的に活用する」ことを念頭におきインターネット上の情報を利用することを考えている。

基礎技能系 Can-do リストには、メタ認知能力を高める項目として、「自身の日本語使用における文法的正誤を判断し、誤った場合に修正することができる」が挙げられている。これまでも到達目標として「自分が書いた文章の不適切な部分に気づき、修正することができる」とあり、ループリック評価にも組み込まれており、授業活動でも学生が自分の書いた文を修正する機会はあった。しかし、系統的な指導としては組み込まれていなかった。そこで、2022 年度のシラバスでは、基礎技能系 Can-do リストに挙げられた「自身の日本語使用における文法的正誤を判断し、誤った場合に修正することができる」に到達目標の文言を修正し、教科書を誤用訂正の練習があるものに変更、毎回指導していくことを目指す。

新たに 2022 年度に扱う文法項目として基礎技能系 Can-do リストから取り入れたのが「名詞修飾」と「自動詞・他動詞」である。「名詞修飾」はこれまで名詞や形容詞・動詞の活用とともに扱っていたが、独立して扱うことで節のレベルまで産出できることを目指す。「自動詞・他動詞」は日本語学習者にとって使い分けが難しく混乱しやすい文法項目の一つとされている。大学生活においてレポートや報告書を作成する際に背景説明をする際には自動詞を、自分自身の意見・考察を表すには他動詞を正確に使いなければならない。難しいながらも、非常に重要な項目と考えられるので、取り扱うこととした。

アーティキュレーションとして、コミュニケーションとの関連付けを図り、実施回を移動させた文法項目もある。同週の後半にコミュニケーションの授業で「申し出」を扱うことに合わせ、先んじて文法知識を導入するため、9 回に使役・使役受け身を実施するように変更した。

その他、基礎技能系 Can-do リストに挙げられているがシラバスに取り上げていないものもある。文体と接続詞・マーカーは授業活動として行う書くタスクの中での指導を目指す。複文は、因果関係、条件節、引用など様々な用法を取り扱うことになり、非常に学習項目としては複雑である。前述のとおり、本学学生は様々な文法項目が習得に至ってはいないものの、既習であるため、オーソドックスなアプローチでは学習意欲が喚起されない。ゆえに、学習項目の提示の仕方には慎重でなければならない。教える上で初級とは違った見せ方をするなど教材の工夫が必要だと考えた。そこで、複文については今後の課題と考え、大学に申請した企画「留学生日本語力補強：日本語力に課題を抱える本学留学生のための教材開発」において本学の学生にあった教材を作成し、実践にまで結び付けたいと計画している。

### 3.4.3.2. 日本語コミュニケーションの2022年度シラバス、ルーブリック、教室活動への反映

2022年度シラバスを作成する際に最も大きく変更した点は、コミュニケーションの形態に関係する学習項目である。2021年度は1対1の会話のみ扱っており、発表やディスカッションのような多人数で構成されるコミュニケーション活動は行われておらず、大学生活における言語活動を十分に反映したシラバスとは言い難かった。そこで、2022年度は基礎技能系 Can-do リストの「発表」「ディスカッション」をシラバスに取り入れることとし、到達目標として「発表やディスカッションの表現の基礎を身につけ、実際に使うことができる」を設定した。授業活動としては、スピーチを2回、ディスカッションを1回設けることとした。また、基礎技能系 Can-do リストの「スタイルの使い分け」を反映させ、「大学生活において多様な人々と適切なスタイルを用いて文章および口頭でやりとりすることができる」という到達目標を設定した。これまでも待遇表現は扱っていたが、目標としては設定されていなかった。

日本語コミュニケーションにおいてメタ認知能力を高める項目としては、「発話や文章における文法的誤りが特定できる」「発話における発音上の問題が特定できる」「発話や文章における文法的誤りを修正できる」「自分の発話における発音上の問題を修正することができる」が挙げられる。これらメタ認知能力向上を目的として、「文法的誤り」や「発音上の問題」は、まとめて「発話上の問題」という表現にし、「発話上の問題を特定し、修正することができる」という到達目標を設定した。2021年度は、発音指導は系統的には行われていなかった。これも2022年度の重点項目とし、6回の発音指導の回を設けることとした。ルーブリック評価にも反映させ、このメタ的に自身の発話を見つめる力を「モニター力」として項目を設け、自分で文法や発音の問題を特定し、修正できることを最上位のレベル(S)とした。

### 3.4.3.3. 日本語語彙の2022年度シラバス、ルーブリック、教室活動への反映

2021年度は到達目標を「どのような専門分野においても共通し、高い頻度で使用される基本語彙を理解することができる」「基本語彙を文脈にあわせて適切に使用することができる」「ニュースや記事の内容を正確に理解し、自分の考えを説明できる」として、次のような活動を行っていた。事前課題として指定されたニュース教材を見て概要理解問題を解き、授業でディスカッションできるよう未知語は調べておくことになっていた。授業では、まずニュースのスク립トを学生に音読させて発音を確認してから、ディスカッション活動へと入った。このニュースを聞いて理解し、言葉を調べ、発音を確認、そしてディスカッションをするという一連の活動において、基礎技能系 Can-do リストの「新しい語を自分で調べることができる」「調べた語の読み方を正確に発音することができる」「活動の中で、学んだ語を特定し意味を理解することができる」「活動の中で、学んだ語を使用してやりとりを行うことができる」については、すでに実践されていたといえる。このように基礎技能系 Can-do リストに照合して振り返った際、「調べた語彙の読み方を正確に覚えることができる」点が課題として残されていることが明らかとなった。また、調べた語の読み方も、その語の意味も「覚える」段階まで引き上げることができていなかった。そこで、2022年度は到達目

標の一つに「知らない語にであった時、その語の読み方、意味、発音を調べ、習得することができる」を掲げ、明示的に「覚える」段階まで到達することを示した。授業でも「覚える」段階のタスクを実施することを計画している。その他に、これまでどおり語を文脈から切り離さずに意味・用法を理解し、使用レベルにまで到達することを目指し、「活動の中で学んだ語を特定し、その文脈での意味・用法を理解することができる」と「活動の中で学んだ語を使用して、やりとりすることができる」という到達目標を設定し、より理解から使用レベルにまで語彙知識を引き上げることを明確にした。この到達目標に合わせ、評価ルーブリックでは、調べて覚えるまでの力を「学習能力」、意味・用法の理解を「理解力」、使用してやりとりする力を「産出力」の三つを評価項目とした。「正確に覚えること」「正確に理解すること」「適切に使用すること」を最上位のレベル（S）とした。

#### 3.4.4. 共有対象及び今後の展開構想

基礎技能系 Can-do リストの共有対象は、日本語担当教員と、外部教材作成担当者が中心となる。日本語担当教員との共有においては、シラバスと評価ルーブリック作成まで進んでいるので、次年度は PDCA サイクルの D→C→A と回すこととなる。また、次年度計画されている B・C レベルの日本語 I・II 及び日本語特講 I・II の Can-do リストを作成する際のアーティキュレーション上の一起点となる。

教材化については、委託内容の可視化と共有のために基礎技能系 Can-do リストが機能する。但し、教材は、教授項目の説明だけではなく、教室活動も含むため、今後の課題として基礎技能系 Can-do リストで示したことができるようになるための効果的な教室活動の開発があげられる。

#### 注

- 1) 詳細は巻末資料を参照されたい。

文責：齊藤眞美

徳田恵（3.4.3.1, 3.4.3.2, 3.4.3.3）

### 3.5. アカデミック・コンピテンス Can-do リスト 2021

#### 3.5.1. 目的と定義

「アカデミック・コンピテンス Can-do リスト 2021」の作成目的は、山梨学院大学（以下 YGU）入学から卒業までに修得が求められる日本語力の一端を明らかにし、グローバルラーニングセンター（以下 GLC）による日本語プログラムで体系的に指導できるよう、その指針を示すことである。ここで扱うアカデミック・コンピテンスが何かを説明する前に、アカデミック・ジャパニーズの概念について触れておく。アカデミック・ジャパニーズという言葉は、日本留学試験で測定すべき日本語力を説明する中で用いられ、その後「大学での学修に必要な日本語」といった意味で日本語教育にも広く普及した。しかし、門倉（2006）などの論考にあるように、アカデミック・ジャパニーズは教養教育や市民教育など言語の修得のみを範疇とする狭義的な意味を超えた内容を含むものである。実践報告のためにアカデミック・ジャパニーズの議論全体をレビューした鈴木他（2010）は、留学生に求められるアカデミック・ジャパニーズを以下のようにまとめている。

- 1) 大学での学修に必要な日本語の言語要素や技能
- 2) 比較・例示・問題発見・分析・問題解決など、大学教育で求められる思考力

レポート作成の例を考えてみると、文を作成するために文法や専門用語などの言語知識が不可欠だが、研究テーマ・問いを切り出し、結論に至る過程で主張を根拠とともに展開するための思考力が求められる。つまり、アカデミック・ジャパニーズの 1) と 2) はそれぞれ個別に切り離されたものではなく、統合的な運用がなされると言える。

こうしたアカデミック・ジャパニーズの広範的な定義を踏まえると、Can-do プロジェクトの「①授業活動別 Can-do リスト」(3.2.) は「話す」「聞く」という言語技能、「②GLC（日本語）基礎学修能力 Can-do リスト」(3.3.) は思考力育成が可能かを見極めるためのボトムラインとしての態度・姿勢、「③基礎技能系 Can-do リスト」(3.4.) はアカデミック・ジャパニーズの基礎となる言語力、もしくは窓口での手続きや授業外でのクラスメートとの簡単な会話など、カジュアルな場面で求められる「キャンパス・ジャパニーズ」（門倉 2003）を網羅すると捉えられる。一方、単位取得にかかるよりフォーマルな場面において文献講読やレポート作成が不可欠ことを考えると、「読む」「書く」に特化した Can-do リストも必要となる。文献講読では日本語の言語知識・運用力に加え、批判的に内容を吟味・分析する力といった思考力が求められる。レポート作成については上述した通りである。また、大学卒業後の進路として大学院進学を視野に入れた場合、かなり高度な思考力を含む「読む」「書く」力が要求される。そこで、言語四技能を広範囲に含むアカデミック・ジャパニーズと区別して、大学入学から卒業までに必要な「読む」「書く」力を細分化したものを「④アカデミック・コンピテンス Can-do リスト 2021」（以下、AC{Academic Competence} Can-do リスト）と名付けることとした。コンピテンス（Competence）は潜在的なものを含む能力という意味で、言語運用能力を示す際に言語教育学の分野で用いられる語である。ここでいう能力は「読む」「書く」力、それに付随して求められる思考力に限定する。

「AC Can-do リスト」で扱う力と GLC が提供する日本語科目の関係について、2.3.で示した図を再掲して示す（図1）。「AC Can-do リスト」は、「読む」「書く」力に関して新入留学生の A～C レベル（第2章参照）を全て網羅している点で、他の Can-do リストに比べ広範囲にわたる。また、大学院進学などアカデミックな進路を希望する学生の支援につながるよう、大学卒業時に修得していることが望ましい Can-do リストも範疇としており、他の Can-do リストよりも難易度の高いものを含む。

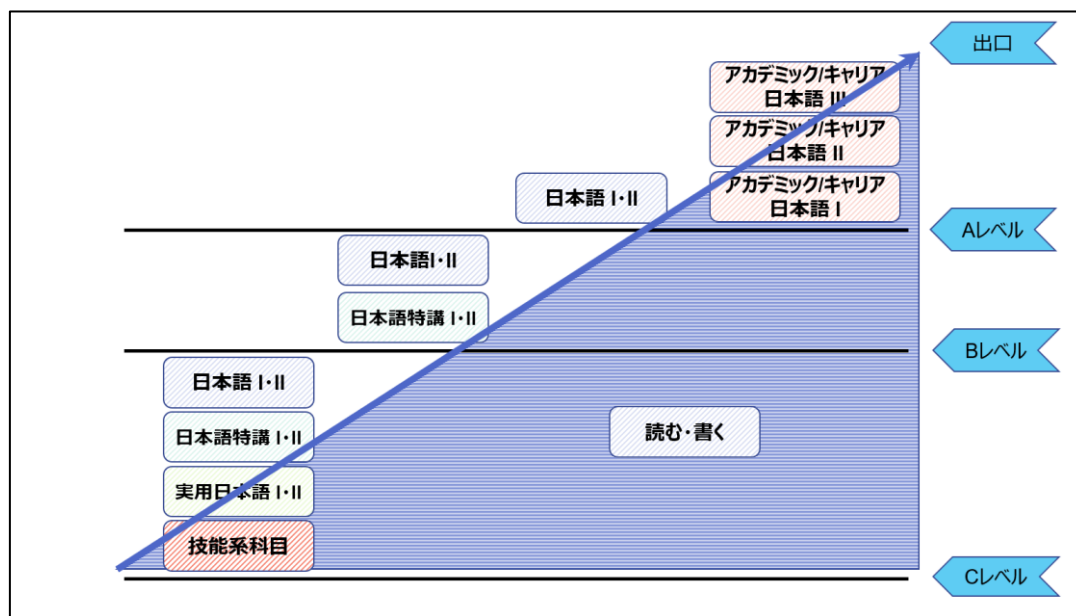


図1 レベル別日本語科目（2.3.で齊藤が作成した図を再掲）

### 3.5.2. 作成の経緯

「AC Can-do リスト」は、「基礎演習 I・II 履修留学生対象アンケート」、「日本語力 自己評価シート」、「日本語 I・II (A レベル) チェックリスト」（いずれも巻末資料参照）、アーティキュレーション整備<sup>1</sup>の際作成された会議資料を概観し、「足りないもの」に着眼したことが作成の経緯にある。本プロジェクトのベースとなったこれらの材料を見渡してわかったのは、日本語の四技能のうち「読む」「書く」に関する記述が少ないことであった。その例として、GLC の日本語セクション（以下 GLC-J）で科目間のアーティキュレーションを考えるために作成した「Can-do リスト 2020 アカデミック日本語」を表1に示す。

表1で「読む」「書く」に関連するものは、1と4にある。1の「資料を正確かつ批判的に読むことができる。」はその一つだが、A レベルであっても「批判的に読む」ことは容易ではなく、それ以前に読み物の概要や筆者による主張の把握が困難な学生が多いというのが、「アカデミック日本語」を担当した報告者と金桂英特任講師の所感であった。批判的な読みは、内容理解の上で成り立つことである。このことは、表1に挙げた Can-do リストを扱う以前に、よりブレイクダウンした「読む」「書く」力の育成が必要なことを示唆している。A レベルの「アカデミック日本語」履修者がそうであるなら、B および C レベルの学生指導には、より段階的に積み上げるべき言語運用力を可視化しなければならない。

また、4の「研究計画書やレポートに必要なフォーマルな文章（文体、語彙、表現などの日本

語、構成などの内容) を書くことができる。」のように、タスクの遂行ができるという主旨のものが上述の資料には多く、例えばフォーマルな文章作成というタスクにおいて、どのような力が求められるのかが具体的に示されていないという課題が浮かび上がった。

表1の2および3にある目標設定・学習計画・学習実施など、PDCAサイクルを自ら循環させる力もアカデミック・ジャパニーズの習得上重要である。「②GLC(日本語)基礎学修能力 Can-do リスト」の上位レベルに位置するものとして、今後 Can-do リストに組み込むことも考えられよう。しかし、今回の Can-do プロジェクトの目的は、第一に日本語プログラムの洗練化にあることを考え、「AC Can-do リスト」では、他の Can-do リストで網羅されていない日本語の「読む」「書く」に特化することとした。

表1 科目別 Can-do リスト 2020「アカデミック日本語」の例 ※報告者と金桂英講師が作成

<p>1. アカデミック・スキルを身につける</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 資料を正確かつ批判的に読むことができる。(読解力)</li> <li><input type="checkbox"/> 資料を自分の経験や知識と関連付けながら理解・解釈することができる。(把握する力)</li> <li><input type="checkbox"/> 研究テーマなど自分に必要な情報を収集することができる。(情報収集力)</li> <li><input type="checkbox"/> 収集した情報を批判的に分析することができる。(分析力、リサーチ力)</li> <li><input type="checkbox"/> 自分の理解・解釈を他者にわかるように説明できる。(表現力)</li> <li><input type="checkbox"/> 他者の発言に対し、適切に質問・コメント・確認・同意表明・反対表明をすることができる。(ディスカッション力)</li> <li><input type="checkbox"/> 他者とのやり取りの中で、適切な表現を用いながら考えを深め合うことができる。(関係調整・構築力、協調する力)</li> <li><input type="checkbox"/> ディスカッションを基に、自分自身の考えと観点をまとめることができる。(統合力)</li> <li><input type="checkbox"/> あるテーマをめぐり、他者とターンを繰り返す中で、テーマに関する理解・解釈を深めたり、結論を共同で出すことができる。(関係調整・構築力、協調する力、統合力)</li> <li><input type="checkbox"/> まとめたものを適切な媒体を使って、他者に伝えることができる。(プレゼンテーション力)</li> </ul> <p>2. 自分の学習を振り返り、改善のために目標を設定する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 自分のこれまでの経験値や能力を把握することができる。(自己分析力)</li> <li><input type="checkbox"/> 自分の将来の目的や展望を描くことができる。(目標設定力)</li> <li><input type="checkbox"/> 現在の自分と理想の自分のギャップを分析し、現状から学習目標到達のために必要な能力をリスト化することができる。(自己分析力と目標設定力)</li> <li><input type="checkbox"/> 自分の人生において大学院進学などのアカデミックなキャリアがどのような意味を持つかを認識することができる。(自己把握力)</li> <li><input type="checkbox"/> 卒業論文の作成や大学院進学に必要な目標設定ができる。(目標設定力)</li> </ul> <p>3. 目標を達成するための学習計画を立てて、実施する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 学習計画を立てることができる。(計画力)</li> <li><input type="checkbox"/> 卒業論文の作成や大学院進学に必要な情報を収集し、適切な時期に必要な行動をとることができる。(計画力)</li> <li><input type="checkbox"/> 計画を実施することができる。(自己管理力)</li> <li><input type="checkbox"/> 計画実施プロセス及び到達度を評価することができる。(自己評価力)</li> <li><input type="checkbox"/> 計画の実施を反省的に振り返り、改善策を考えることができる。(循環推進力)</li> </ul> <p>4. 特定強化日本語能力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 話し言葉を文脈や課題(ディスカッション、プレゼンテーションなど)に応じて適切に使い分けることができる。</li> <li><input type="checkbox"/> 書き言葉を文脈や課題(ノートテキング、レポート、研究計画書など)に応じて適切に使い分けすることができる。</li> <li><input type="checkbox"/> ディスカッションやプレゼンテーションなどで求められる談話展開を意識し、やりとりが継続できる。</li> <li><input type="checkbox"/> 研究計画書やレポートに必要なフォーマルな文章(文体、語彙、表現などの日本語、構成などの内容)を書くことができる。</li> </ul>
--

なお、「AC Can-do リスト」は、「基礎演習 I・II 履修留学生対象アンケート」、「日本語力自己評価シート」、表 1 の「科目別 Can-do リスト 2020 アカデミック日本語」などを参照したものの、そもそも「読む」「書く」の記述が多くないことから、報告者が担当した「日本語 I・II」および「アカデミック日本語」、経営学部必修科目「ライティング」（留学生専用；2020 年度のみ開講）での実践経験に基づき、報告者が原案を作成した。そして、本プロジェクトメンバーで議論を重ねた上で、最終版を完成させた。

### 3.5.3. Can-do リスト

「AC Can-do リスト」は項目を「読解」と「文・文章作成」に分け、それぞれ 3 段階の難易度ごとに区分した。難易度を示す段階と対象となる日本語レベルおよび科目を表 2 に示す。

表 2 「アカデミック・コンピテンス Can-do リスト 2021」の段階と対象となる日本語科目

段階	説明	対象となる日本語レベル・科目
I	大学入学までに修得していることが必須の技能	C レベルの日本語科目
II	大学入学後、早期に修得することが必要な技能	A・B レベルの日本語 I・II
III	卒業時に修得していることが望ましい技能	アカデミック日本語 I・II・III

日本語の最上位科目には「アカデミック日本語」と「キャリア日本語」があるが（図 1 参照）、3.4.2.の表 2 「科目別 Can-do リスト 2020 『キャリア日本語』の例」にあるように、「キャリア日本語」では、「読む」「書く」以上に高度な口頭表現力が求められることから、難易度が最も高い段階 III は「アカデミック日本語」での指導を想定して作成した。以下、「AC Can-do リスト」を示す。



アカデミック・コンピテンス Can-do リスト 2021

読解	
段階 I	
1	漢字を正しく読むことができる。
2	日常生活で使う基本的な語を読み、理解することができる。
3	チラシやお知らせなどで使われる簡単な指示文を理解することができる。
4	文の構造(動詞の活用、名詞修飾、複文、主述など)を把握しながら、読むことができる。
5	分からない言葉や文法を調べて、意味を理解しながら、文を理解できる。
6	大学からの情報(掲示板、メール、文書など)の書式・形式を理解し、必要な情報を読み取ることができる。
7	文と文のつながり(接続詞など)を理解しながら、読むことができる。
8	自分が母語で知っている内容であれば、知らない言葉があっても概要を把握することができる。
9	授業の制限時間内に短い文章を読み、概要を把握することができる。
10	視覚資料(絵、写真など)の助けを借りて、文章の概要を推測することができる。
段階 II	
11	文章の全てを読まずに、見出しや中心文など、理解できる文章のパーツから概要を推測することができる。
12	知らない言葉があっても、意味を推測しながら読み、最後まで読み進めることができる。
13	読み物のジャンル(新聞、雑誌、論文、図書、講義資料など)に応じて書式・形式を理解し、必要な情報を読み取ることができる。
14	文献を読み、概要を把握できる。
15	文献を読み、要点を抽出できる。
16	文献を読み、自分に必要な情報を選び取ることができる。
17	文章中の意見と事実を区別して理解できる。
18	専門分野で頻出する語彙や専門用語(カタカナ語含む)を理解できる。
19	図表を読んで理解し、自分の研究課題に応じてデータを解釈できる。
20	知らない内容の読み物を読み、読んだ後で新しい情報・知識を整理できる。

段階 III	
21	文献・資料と自分の知っていることを関連付けながら、読むことができる。
22	文献・資料と自分の考えを比較しながら、読むことができる。
23	文献・資料を読み、それに対する自分の理解や解釈について自問できる。
24	文献・資料を読み、明示されていない筆者の意図を読み取ることができる（行間を読む）。
25	文献・資料を読み、筆者の立場・主張を理解できる。
26	複数の文献・資料を読み、情報を関連付けて整理・分類できる。
27	複数の文献・資料を読み、賛否など異なる複数の立場・主張を把握・認識できる。
28	文献・資料を読み、その内容の不足点や矛盾などの欠陥に気づくことができる。
29	専門分野の論文・図書を読み、研究動向を把握できる。
30	専門分野の論文・図書を読み、研究動向から新たな研究課題を見出すことができる。

文・文章作成	
段階 I	
1	正しい文字（ひらがな、カタカナ、日本語の漢字）を使って書くことができる。
2	PC を用いて、日本語を入力・タイプすることができる。
3	（～て形、～た形など）動詞を適切に活用して、文が書ける。
4	語と語を助詞で適切につなぎ、文を組み立てることができる。
5	名詞修飾を適切に使って文が書ける。
6	複文で意味が分かるように文が書ける。
7	書き言葉と話し言葉の区別ができる。
8	書き言葉と話し言葉を混ぜずに、統一して書くことができる。
9	接続詞を適切に使って、論理的に文と文をつなぎ、結束性のあるパラグラフを作ることができる。
10	授業の制限時間内に、課題の条件を満たしながら書くことができる。

段階 II	
11	主体と述部の関係がわかる文が書ける。(授受使役、呼応など)
12	箇条書きと文の違いを理解し、適切に使い分けができる。
13	読み手を意識し、指示詞や必要な情報を丁寧に説明して、自分の考えをわかりやすく表現できる。
14	自分の考えに対する理由を読み手が納得するように説明できる。
15	単なる感想ではなく、なぜそう思ったかという内省を読み手がわかるように表現できる。
16	パラグラフとパラグラフが論理的につながった文章を書くことができる。
17	序論・本論・結論など、展開が明確にわかる文章を書くことができる。
18	ある情報を自分のことばで要約できる。
19	引用ルールを理解し、本文中で適切に間接引用ができる。
20	引用文献の出典を適切に示すことができる。
段階 III	
21	社会背景や研究動向に基づき、レポートの問い(リサーチ・クエスチョン)を立てることができる。
22	リサーチ・クエスチョンに対する調査(文献調査、データ分析など)の結果を一貫性ある形で説明できる。
23	情報・データをまとめて図表を作成し、その説明が文章化できる。
24	引用部分に対する自分の意見・評価を区別して書くことができる。
25	結果に対する考察を書くことができる。
26	文章を読み直して、適切に自己推敲し、自力で文章を改善できる。
27	志望する進路に対する動機について、大学生生活で行ったこと、学んだことと関連付けて文章で説明できる。
28	志望する進路に対する動機について、将来と関連付けて文章で説明できる。
29	専門分野について、その概要を他者に明快に文章で説明できる。(先行研究レビュー)
30	研究テーマをめぐり、その概要からリサーチ・クエスチョン設定までの過程を文章で説明できる。(研究計画)

#### 3.5.4. 共有対象及び今後の展開構想

「AC Can-do リスト」の共有対象は、第一に GLC-J 教員が中心となる。まず、段階 I は「③基礎技能系 Can-do リスト」との親和性が高く、「読む」「書く」力を養うために C レベルの技能系科目で扱うべき事柄を確認し、GLC-J での教材開発に役立てることができる。段階 I と段階 II は「日本語 I・II」および「日本語特講 I・II」において「読む」「書く」指導をいかに段階的に取り込むか、GLC-J でアーティキュレーションを考慮しながら

ら、シラバスやルーブリックの洗練化に活用できるだろう。そして、段階 III は「アカデミック日本語 I・II」のシラバス改善、2023 年度新規開講予定の「アカデミック日本語 III」の開発に利用できる他、GLC-J 教員が留学生の進路指導を「日本語サポートデスク」<sup>2)</sup>で行う際などに指針を示すと考える。

「AC Can-do リスト」は、学部や教学センターと共有することで、留学生の学修支援効果をより高めることができる。まず、2022 年度に経営学部で新規開講される中国人留学生対象科目「アカデミックスキル」(中国語開講)の授業設計をする上で、段階 I や II の修得状況を把握し、学習項目に反映させることができると考える。また、段階 III については、学習・教育開発センター(LED)との情報共有に用いることで、LED が提供するリテラシー教育科目(「アカデミック・リーディング」「アカデミック・ライティング」など)との有機的な連携が可能になればと考えている。

#### 注

- 1) GLC-J におけるアーティキュレーション整備については、3.4.2.を参照されたい。
- 2) 「日本語サポートデスク」とは授業外の留学生支援システムを指す。詳細は、[https://www.ygu.ac.jp/glc/publication/news\\_letter](https://www.ygu.ac.jp/glc/publication/news_letter) を参照されたい。

#### 参考文献

- 門倉正美 (2003) アカデミック・ジャパニーズとは何か 日本留学試験が日本語教育に及ぼす影響に関する調査・研究—国内外の大学入学前日本語予備教育と大学日本語教育の連携のもとに— 平成 14 年度～16 年度 科学研究費補助金基盤研究費 (A) (1) 研究成果報告書, 123-132.
- 門倉正美 (2006) <学びとコミュニケーション>の日本語力-アカデミック・ジャパニーズからの発信 アカデミック・ジャパニーズの挑戦 ひつじ書房, 3-20.
- 鈴木美加・中村彰・藤森弘子 (2010) アカデミックな日本語運用能力を高めるために—中～上級クラスの実践から見えてきたこと— 第 15 回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム 2010 年 8 月 25 日 ヨーロッパ日本語教師会 発表資料 <https://eaje.eu/pdfdownload/pdfdownload.php?index=162-169&filename=koto-suzuki-nakamura-fujimori.pdf&p=bucharest> (2022 年 3 月 25 日)

文責：トンプソン美恵子

#### 4. まとめと今後の展望

本報告書では、GLC 日本語プログラム開発における、2021 年度までの Can-do プロジェクトについて、第 1 ステップと第 2 ステップの途中までの成果について報告した。第 1 ステップは、全学における教育課程における枠組みの中で、新日本語カリキュラムを位置づけ、確定することであった。第 2 ステップは、科目内容の洗練化に向けた活動で、その成果である Can-do リスト 2021 として、「①授業活動別 Can-do リスト」「②GLC（日本語）基礎学修能力 Can-do リスト」「③基礎技能系 Can-do リスト」「④アカデミック・コンピテン ス Can-do リスト」の 4 種を報告した。

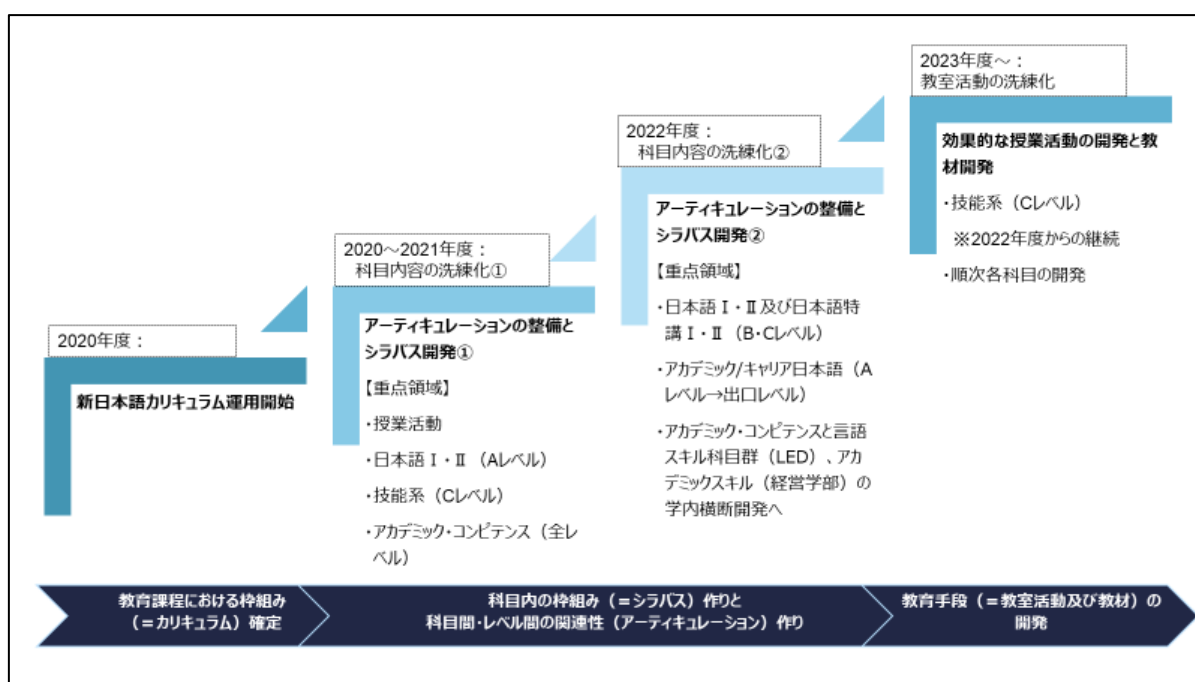


図 1 GLC 日本語プログラム開発 4 年計画

図 1 のとおり次年度は、科目の洗練化を継続する。対象分野は①B・C レベルの日本語 I・II 及び日本語特講 I・II、②アカデミック日本語とキャリア日本語となる。また、学内関連部署との横断型アーティキュレーション整備に向け、アカデミック・コンピテン ス Can-do リスト 2021 を学習・教育開発センターが全学的に展開している言語スキル科目群 (言語技術、アクティブ・リーディング、アクティブ・ライティング等) や、経営学部で 2022 年度に新規開講される中国人留学生対象科目「アカデミックスキル」との連携検討の際の可視化・共有のためのツールとして用い、結果を日本語科目へもフィードバックし、科目の洗練化につなげていきたい。

基礎技能系科目については、2022 年度より教材開発が本格化し、Can-do リスト 2021 が GLC 基礎技能系科目の方針を具体的に可視化したものとして、学内関係者だけではなく外部教材作成委託者との共有のためにも活用されていく。併せて、教室活動の開発も行っていく予定である。こうして基礎技能系科目は、教育手段の開発という第 3 ステップに移行していくこととなる。

それぞれの Can-do リストの内容は、今後アーティキュレーションが整備されていく中で

更新される可能性がある。そのため、現時点のものにはリスト名に年号を付すこととした。Can-do リストは、今後もプロジェクトメンバー間で精査を繰り返しながら、常に開発途上にあると言える。

文責：齊藤真美

## 巻末資料 1. 基礎演習 I・II 履修留学生対象アンケート・結果まとめ

### 基礎演習 I 履修留学生対象アンケート

1. 今履修している科目の中で、最も好きな授業はどれですか？その理由を選んでください。理由は複数選んでもいいです。

授業の名前 ( )

好きな理由：

先生の話し方がわかりやすいから ・ 先生が使う資料 (プリント・PPT など) がわかりやすいから ・  
内容が面白いから ・ 授業で日本人学生と話す機会があるから ・ 人数が少ないから ・  
授業が講義形式だから ・ 授業がディスカッション形式だから ・ 将来役に立ちそうだから ・  
その他 ( )

2. 今履修している科目の中で、最も難しいと感じる授業はどれですか？その理由を選んでください。理由は複数選んでもいいです。

授業の名前 ( )

難しいと感じる理由：

先生の話が理解できないから ・ 先生が使う資料 (プリント・PPT など) が難しいから ・  
内容が難しいから ・ 日本人学生の話が理解できないから ・ 日本人学生と話すのが難しいから ・  
授業が講義形式だから ・ 授業がディスカッション形式だから ・ 宿題が多いから ・  
宿題が難しいから ・ その他 ( )

3. 基礎演習 I でどのようなことが難しいですか？下から選んでください。複数選んでもいいです。どうしてそれらが難しいと感じますか？理由も書いてください。

教科書の練習問題を解く ・ 先生の話を理解する ・ 授業の流れを理解する ・  
クラスメートと話し合う ・ クラスメートの話を理解する ・ グループワークで発言する ・  
グループワークで司会をする ・ グループワークで書記をする ・ 先生に質問する ・  
クラスメートに質問する ・ その他 ( )  
理由 ( )

4. 大学の授業で、今どのようなアカデミックスキルを身につける必要があると思いますか？自分に必要な力を下から選んでください。複数選んでもいいです。どうしてそのような力が必要だと思いますか？理由も書いてください。

講義を理解する ・ 講義のノートをとる ・ 授業の資料を読む ・ クラスメートと話し合う ・  
クラスメートの話を理解する ・ 必要な資料を探す ・ 資料を自分のことばでまとめる ・  
資料を分析する ・ 発表する ・ 授業の感想を書く ・ レポートを書く ・  
先生に言いたいことを伝える ・ クラスメートに言いたいことを伝える ・  
その他 ( )  
理由 ( )

5. 以下のアカデミックスキルについて、自己評価してください。

5=とてもできる、4=できる、3=まあまあ、2=あまりできない、1=全くできない、  
 まだ大学の授業で機会がないので、わからない=NA

講義を理解する	5	・	4	・	3	・	2	・	1	・	NA
講義のノートをとる	5	・	4	・	3	・	2	・	1	・	NA
授業の資料を読む	5	・	4	・	3	・	2	・	1	・	NA
クラスメートと話し合う	5	・	4	・	3	・	2	・	1	・	NA
クラスメートの話を理解する	5	・	4	・	3	・	2	・	1	・	NA
必要な資料を探す	5	・	4	・	3	・	2	・	1	・	NA
資料を自分のことばでまとめる	5	・	4	・	3	・	2	・	1	・	NA
資料を分析する	5	・	4	・	3	・	2	・	1	・	NA
クラスメートの前で発表する	5	・	4	・	3	・	2	・	1	・	NA
授業の感想を書く	5	・	4	・	3	・	2	・	1	・	NA
レポートを書く	5	・	4	・	3	・	2	・	1	・	NA
先生に言いたいことを伝える	5	・	4	・	3	・	2	・	1	・	NA
クラスメートに言いたいことを伝える	5	・	4	・	3	・	2	・	1	・	NA

6. 大学に入学してから、どの程度日本語が上達したと思いますか？自己評価し、何ができるようになったか（できないか）、評価の理由も具体的に書いてください。

5=とても上達した、4=上達した、3=まあまあ、2=少しだけ上達した、1=変わらない

読む	5	・	4	・	3	・	2	・	1	
理由 (										
書く	5	・	4	・	3	・	2	・	1	
理由 (										
聞く	5	・	4	・	3	・	2	・	1	
理由 (										
話す	5	・	4	・	3	・	2	・	1	
理由 (										

7. 大学生活を送るために、どのような日本語力を向上させたいと思いますか？自由に書いてください。

ご協力ありがとうございました。



基礎演習 I 履修学生対象アンケート結果概要

2019/10/14

トンプソン美恵子

対象者：2019 年度前期日本語 IA および IB 履修学生 41 名

実施日：2019 年 7 月 29 日（月）3 時限（期末試験終了後）

方法：アンケート用紙に無記名で記入

8. 履修している科目の中で最も好きな授業はどれですか(自由記述)。理由を選んでください(複数回答可)。

1-a. 好きな授業

基礎演習 I	13
日本語 I	6
文化人類学 I	4
基礎経済学 I	3
憲法 I	2
民法 I	2
歴史学 I	2
論理学 I	2
アジア共同体論(法)	1
コンピューターリテラシー I	1
社会学 I	1
スポーツ経営学	1
専門演習入門 I	1
富士山と観光	1
メディアリテラシー	1

1-b. 好きな理由-全授業合算

N=82

先生の話し方がわかりやすい	21
先生が使う資料がわかりやすい	12
内容が面白い	9
授業で日本人学生と話す機会がある	13
人数が少ない	6
授業が講義形式	3
授業がディスカッション形式	2
将来役に立ちそう	9
その他	7

その他の内訳

(基礎演習 I)

先生が面白い、授業中ゲームをする、先生が優しい、楽

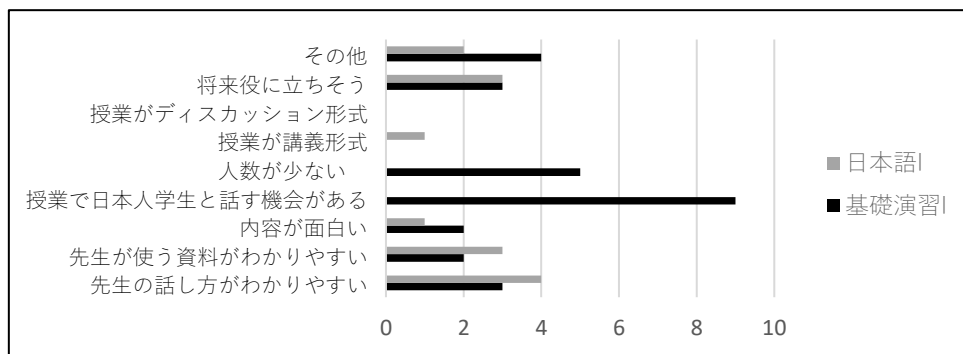
(日本語 I)

新たな知識を身につけたい、先生に親しみがある

(専門演習入門 I)

楽しい

1-c. 好きな理由-基礎演習 I と日本語 I の比較



1 のまとめ

「基礎演習 I」が最も好意的に捉えられている。主な理由は日本人学生との交流や少人数授業という点にある。全授業を総じて見ると、教員の話と資料のわかりやすさ、日本人学生との交流、内容の面白さ、有用性が好きな授業の理由として挙げられている。

9. 履修している科目の中で最も難しいと感じる授業はどれですか(自由記述)。理由を選んでください(複数回答可)。

2-a. 難しい授業 ※網掛けは質問1 既出科目 2-b. 難しい理由-全授業合算

基礎経営学Ⅰ	9
日本語Ⅰ	4
文化人類学Ⅰ	4
基礎経済学Ⅰ	4
音楽と文化Ⅰ	2
基礎演習Ⅰ	1
憲法Ⅰ	1
歴史学Ⅰ	1
人間と科学Ⅰ	1
法学Ⅰ	1
東アジアの歴史と社会	1
古代学Ⅰ	1
基礎簿記	1
現代中国の政治	1
民法総則A	1
スポーツと健康Ⅰ	1
心理学Ⅰ	1
自然の探求Ⅰ	1
簿記概論	1
ない	4

N=45

先生の話が理解できないから	6
先生が使う資料が難しいから	2
内容が難しいから	23
日本人学生の話が理解できないから	3
日本人学生と話すのが難しいから	2
授業が講義形式だから	2
授業がディスカッション形式だから	1
宿題が多いから	2
宿題が難しいから	2
その他	2

その他の内訳

(基礎経営学Ⅰ)

新しい言葉がたくさん出てくる

(歴史学Ⅰ)

学生の私語がうるさい

2-c. 上位4科目および基礎演習Ⅰに対する理由

	基礎経営学Ⅰ	日本語Ⅰ	文化人類学Ⅰ	基礎経済学Ⅰ	基礎演習Ⅰ
先生の話が理解できないから	4				
先生が使う資料が難しいから	1				
内容が難しいから	4	2	3	3	
日本人学生の話が理解できないから				1	1
日本人学生と話すのが難しいから				1	1
授業が講義形式だから	1		1		
授業がディスカッション形式だから				1	
宿題が多いから	1	1			
宿題が難しいから	1	1			
その他	1				

## 2のまとめ

授業を難しいと捉える要因として、内容、教員または学生の話し方などがあつた。「ない」と答えた学生もおり、必ずしも1年次配当の授業を難解と認識している訳ではないことがうかがえる。一方、質問項目1で好きな授業として挙げられたものを難しいと回答した学生もおり(基礎演習Ⅰや基礎経済学Ⅰなど)、その認識を左右する一要因として日本人との交流に対する捉え方がある。

10. 基礎演習 I でどのようなことが難しいですか。選択肢から選んでください(複数回答可)。理由も書いてください。

N=60

クラスメートと話し合う	13
グループワークで発言する	12
クラスメートの話を理解する	8
ない	8
グループワークで司会をする	4
先生の話を理解する	3
グループワークで筆記をする	3
クラスメートに質問する	2
授業の流れを理解する	2
教科書の練習問題を解く	1
先生に質問する	0
その他	4

その他の内訳

小論文(3)

人間関係

※理由を挙げた学生は少数だったため割愛。

### 3 のまとめ

総じてグループワークへの参加に困難を感じていることがうかがえる。発言が難しいという回答の他、クラスメートの話が理解しにくいという回答も 9 件あった。他方、難しい点が「ない」と答えた学生は 8 名で、「まだグループワークをあまり経験していないからわからない」という者も含まれる。内容については、「教科書の練習問題を解く」は 1 件のみで、その他で小論文が 3 件挙げられた。

11. 大学の授業で今どのようなアカデミックスキルを身につける必要があると思いますか(複数回答可)。理由も書いてください。

N=105

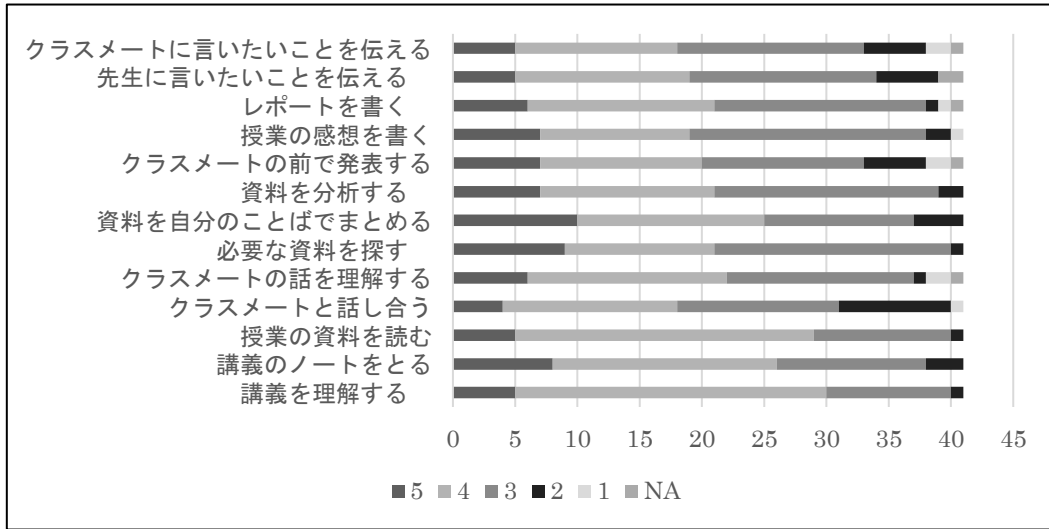
講義を理解する	18
レポートを書く	18
講義のノートをとる	11
発表する	11
資料を自分のことばでまとめる	10
資料を分析する	9
授業の資料を読む	8
必要な資料を探す	8
クラスメートと話し合う	6
先生に言いたいことを伝える	4
授業の感想を書く	3
クラスメートの話を理解する	2
クラスメートに言いたいことを伝える	0

※理由を挙げた学生は少数だったため割愛。

### 4 のまとめ

必要なアカデミックスキルとして、講義理解とレポート作成関連の事柄が多く挙げられた。また、ノートテイキングや発表などのアウトプットを重視していることがうかがえる。

12. 以下のアカデミックスキルについて、自己評価してください(5=とてもできる、4=できる、3=まあまあ、2=あまりできない、1=全くできない、わからない=NA)。その理由も書いてください。



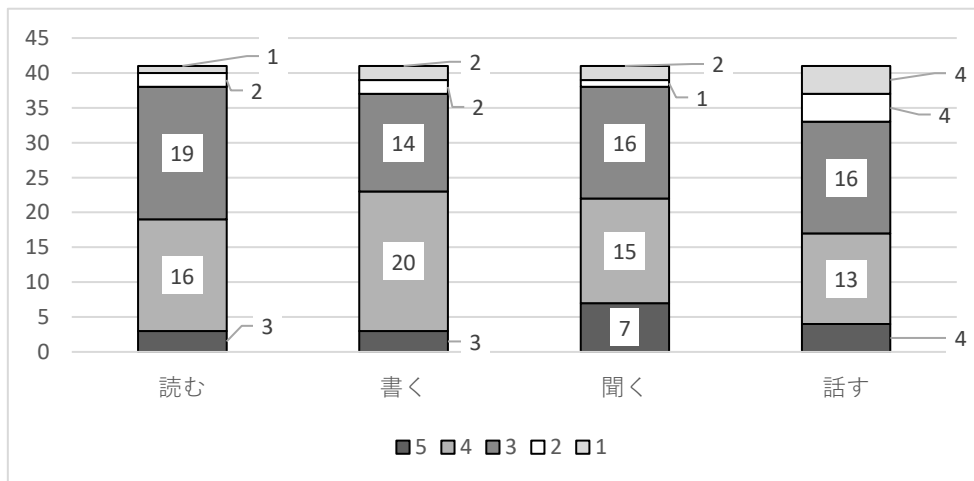
アカデミックスキルズに関する自己評価 ※理由を書いた学生は少数だったため割愛。

5のまとめ

総じて自己評価は高い。その中で、「クラスメートに言いたいことを伝える」「先生に言いたいことを伝える」「授業の感想を書く」「クラスメートの前で発表する」「クラスメートと話し合う」といったアウトプットに3以下をつけた学生が半数以上だった。質問項目4と照らし合わせると、重視されていた講義理解やノートテイキングに関する自己評価は比較的高い。一方、4では必要なスキルとして認識されていなかったクラスメートや教員とのやりとり、授業での発表などに対する自己評価は高くなかった。これは、授業の中で積極的に発言したり、質問したりすることがまだ必要ではないという学生の現状認識も影響していると考えられる(質問項目3の基礎演習の困難点が「ない」と答えた学生の理由など)。

13. 大学に入学してから、どの程度日本語が上達したと思いますか。自己評価し、何ができるようになったか(できないか)、評価の理由も具体的に書いてください(5=とても上達した、4=上達した、3=まあまあ、2=少しだけ上達した、1=変わらない)。

6-a. 日本語4技能の上達に関する自己評価



6-b. 自己評価の理由

※カッコ内数字は自己評価、＋は肯定的／－は否定的理由

読む	+	日本で3年間住んでいるので、読むことは大丈夫(3)、テキストや資料を読むことで上達した(4)、文章を読む場面が増えた(4)、発音がきれいになった(4)、意味はだいたいわかる(3)、普段から新聞を読む習慣がある(4)、読むのはいつも得意(4)、大学で日本語の本をよく読む(2)
	－	能力以上の内容を読んでいないので、向上していない(3)
書く	+	たくさん練習した(4)、たくさんレポートを書いた(3)、レポートや本文の要約を書くことで上達した(4)、大平先生と鈴木先生のおかげ(5)、ノートをよく書くから(4)、新しい文法を学んだ(4)、いつも色々なレポートがあるから(4)
	－	文法があまりわからない(3)、練習する機会がない(1)
聞く	+	バイトで一人だけ外国人なので、よく日本人と話す(4)、授業で自然と身についた(3)、聞く機会が多い(4)、日本人の学生と交流がある(4)、日本人の友達ができた(5)
	－	以前より日本人の友だちが少なくなった(1)、時々具体的なことがわからない(3)
話す	+	バイトで一人だけ外国人なので、よく日本人と話す(4)、日本人と話すチャンスが増えた(3)、基本的なことは伝えられる(4)、日本人と話す機会が多い(3)、日本人の友達が多かったから(5)
	－	日本人のクラスメートと話す機会が少ない(3)、少し内向き(3)、あまり話さない(3)、機会がない(3)、緊張で話せないときがある(3)

6のまとめ

5同様総じて自己評価は高いが、比較的「話す」ことには向上を感じていない。その理由におけるキーワードは「日本人」で、クラスメートなど同世代の日本人と話す機会の有無が、「話す」ことに対する自己評価を左右している。「書く」ことは訓練をしたという実感を持つ学生が多い傾向にある。

14. 大学生生活を送るために、どのような日本語力を向上させたいと思いますか？自由に書いてください。

- ・ もっと多く日本人の学生と交流する
- ・ 日本人の考え方
- ・ 日本人のクラスメートと交流する力を上げたい
- ・ たくさん日本人の友だちを作る。たくさん日本人と話す。
- ・ クラブに参加して日本人の友だちが欲しい。
- ・ 日本の友だちにはっきり自分の気持ちを伝えることができるようになりたい。
- ・ クラスメート言いたいことを伝えるだけでなく、学校の誰とでも交流できる。
- ・ 話す能力、発表する能力
- ・ 話すのが上手になりたい
- ・ 日本人と自由に話せるレベルになりたい。
- ・ 聴くことと話すことを身につけたい。
- ・ 活用する能力を養うこと。学生がどのような目標を設定したか把握し、それに応じた専門的な教育が重要だと思う。
- ・ 文章を素早く読める能力
- ・ 理解の能力（日本人の先生の話の速度）
- ・ 基本的な助詞の復習
- ・ 書き言葉（より正確に伝えたい）。
- ・ ビジネス日本語や敬語をもっと向上させたい
- ・ 敬語に慣れたい。

7のまとめ

日本人学生との交流を挙げた学生が多く、おのずと話す力の向上も複数挙げられている。

基礎演習 II 履修学生対象アンケート結果概要

2020/2/18

トンプソン美恵子

対象者：2019 年度後期「基礎演習 II」履修 4 月入学留学生 34 名

実施期間：2019 年 12 月 23 日（月）～2020 年 1 月 27 日（月）；日本語 I または II クラスで実施

方法：Google フォームに無記名で質問に回答

1. 好きな授業について

1-1. 後期開講総合基礎教育科目・外国語科目の好きな授業および理由（選択式；理由は複数回答可）

科目	件数	好きな理由（カッコ内は延べ件数）
基礎演習 II	6	授業で日本人学生と話す機会がある（6） / 先生の話し方がわかりやすい（3） 内容が面白い（3） / 将来役に立ちそう（2） / 人数が少ない、授業がディスカッション形式（各 1）
哲学 II	4	内容が面白い（4） / 先生の話し方がわかりやすい（3） / 授業がディスカッション形式、先生が使う資料がわかりやすい（各 1）
日本の経済と社会	3	先生の話し方がわかりやすい（3） / 内容が面白い（2） / 先生が使う資料がわかりやすい、将来役に立ちそう（各 1）
現代中国の社会・経済	3	先生の話し方がわかりやすい（2） / 先生が使う資料がわかりやすい（2） / 内容が面白い、授業が講義形式（各 1）
日本語 II (A)・特講 B(B)	3	内容が面白い（2） / 先生の話し方がわかりやすい（2） / 将来役に立ちそう（2） / 先生が使う資料がわかりやすい、授業がディスカッション形式（各 1）
その他	5	先生の話し方がわかりやすい（3） / 内容が面白い、先生が使う資料がわかりやすい、将来役に立ちそうだから（各 1）

[他の科目] スポーツと健康 I (2) / 人間と科学 II, 生物と環境 II, 平和学 II, 倫理学 II, 歴史学 II (各 1)

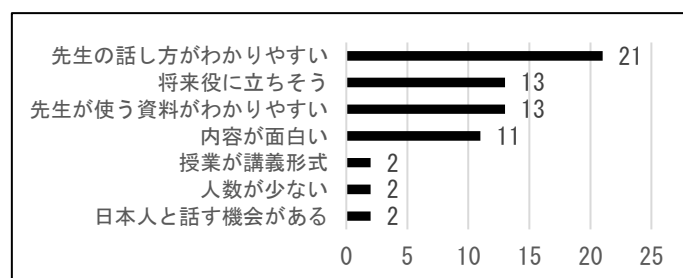
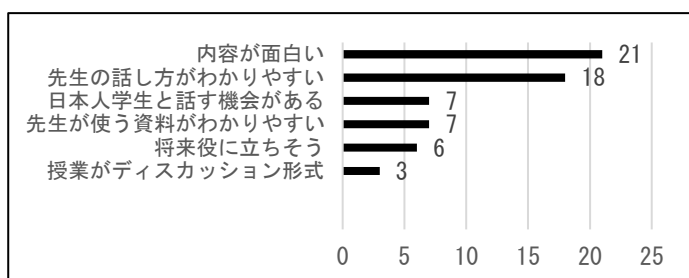


図 1-1. [総合基礎教育科目等]好きな理由全科目合算

図 1-2. [専門教育科目]好きな理由全科目合算

1-2. 後期開講専門教育科目の好きな授業および理由（選択式；理由は複数回答可）

科目	件数	好きな理由（カッコ内は延べ件数）
基礎簿記	12	将来役に立ちそう（8） / 先生の話し方がわかりやすい（4） / 先生が使う資料がわかりやすい（4） / 内容が面白い（3） / 授業が講義形式（2） / 授業で日本人学生と話す機会がある（1）
経済学概論	4	先生の話し方がわかりやすい（4） / 先生が使う資料がわかりやすい（2） / 内容が面白い（1）
コンピューターリテラシー	3	先生の話し方がわかりやすい（3） / 先生が使う資料がわかりやすい（2） / 内容が面白い、将来役に立ちそう（各 1）
経営学概論	2	先生の話し方がわかりやすい（2） / 内容が面白い（2） / 先生が使う資料がわかりやすい（1）
基礎マーケティング	2	先生の話し方がわかりやすい（2） / 先生が使う資料がわかりやすい（1）
マーケティング概論	2	先生の話し方がわかりやすい（2） / 内容が面白い（2） / 将来役に立ちそう（1）
基礎数理・統計	2	内容が面白い（2） / 先生が使う資料がわかりやすい、将来役に立ちそう（各 1）
刑法 II	2	先生の話し方がわかりやすい、将来役に立ちそう（各 1）

[他の科目] コンピューター基礎理論 II, 現代社会とビジネス, 政治行政入門 II, 日本政治史, 不動産取引と法 I (各 1)

1 のまとめ

総合基礎教育科目では、前期同様「基礎演習 II」が最も好意的に捉えられている。日本人学生と話す機会が理由として多数挙がったことも前期と同じ傾向。好きな授業の理由全体を見ると、内容の面白さ、教員の話し方、資料のわかりやすさ、将来への有用性などが上位に挙げられた。

## 2. 難しい授業について

### 2-1. 後期開講総合基礎教育科目・外国語科目の難しい授業および理由（選択式；理由は複数回答可）

科目	件数	難しい理由（カッコ内は件数）
東アジアの歴史と社会 II	3	先生の指示が理解できない (3) / 先生の態度 (2) / manaba やレスポンスが使えない (1)
経済学 II	3	先生の話が理解できない, 先生の指示が理解できない, 日本人学生の話が理解できない, 内容が難しい, 先生が使う資料が難しい, 宿題が難しい, 授業が講義形式 (各1)
法学	3	内容が難しい (3)
音楽と文化 II	3	宿題が難しい, 内容が難しい, 授業が講義形式 (各1)
基礎演習 II	2	宿題が難しい, 日本人学生と話すのが難しい (各1)
古代学 II	2	先生の指示が理解できない, 内容が難しい (各1)
社会学 II	2	内容が難しい (1)
文学 II	2	授業が講義形式, 日本人学生と話すのが難しい (各1)
歴史学 II	2	授業がディスカッション形式, 宿題が多い, 日本人学生と話すのが難しい (各1)
日本語 II (B)・特講 B(B)	2	内容が難しい (2) / 先生が使う資料が難しい, 宿題が難しい (各1)
その他	4	内容が難しい (4)
[他の科目] ジェンダー論 II, 観光と自然保護, 人間と科学 II, 人文地理 II, 哲学 II, 論理学 II (各1)		

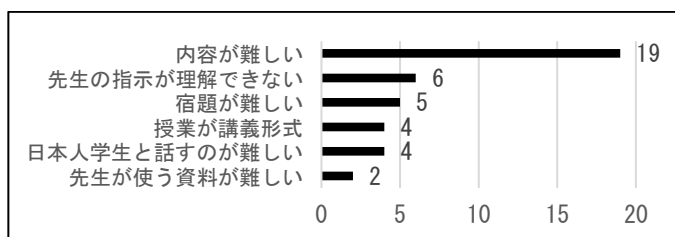


図 2-1. [総合基礎教育科目等] 難しい理由全科目合算

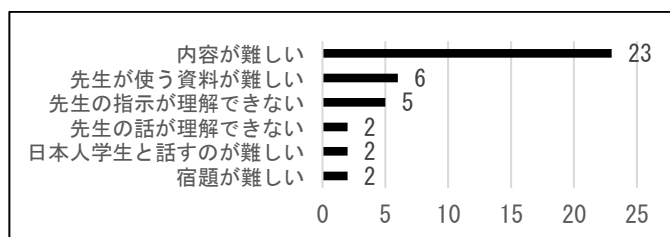


図 2-2. [専門教育科目] 難しい理由全科目合算

### 2-2. 後期開講専門教育科目の難しい授業および理由（選択式；理由は複数回答可）

科目名	件数	難しい理由（カッコ内は件数）
基礎マーケティング	9	内容が難しい (5) / 先生が使う資料が難しい (2) / 先生の指示が理解できない (3) / 日本人学生と話すのが難しい (1)
基礎簿記	8	内容が難しい (7) / 宿題が難しい, 授業が講義形式 (各1)
経営学概論	3	内容が難しい (2) / 先生が使う資料が難しい (1)
憲法 II	3	内容が難しい (2) / 先生の話が理解できない (1)
コンピューター基礎理論 II	2	内容が難しい (2)
法学	2	内容が難しい (2) / 先生が使う資料が難しい, 宿題が難しい (各1)
[他の科目] マーケティング概論, 基礎数理・統計, 公務員の仕事, 政治行政入門 II, 日本政治史, その他 (各1)		

#### 2のまとめ

授業を難しいと捉える要因として、内容、教員または学生の話し方、資料などがあつた。これらは好きな授業で挙げられていた項目でもある。専門科目については好きな授業で挙げられたものがあり、難しいと感じる理由の大半が「内容」だった。専門に対する基礎知識の差が現れたと考えられる。なお、前期は難しい科目が「ない」と答えた学生が4人いたが、後期は0だった。

3. 基礎演習 II の難しい点 (選択式；複数回答可)

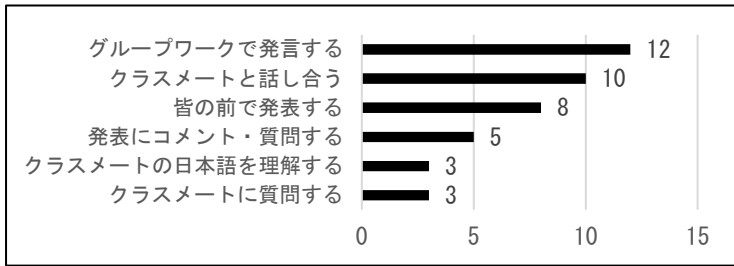


図 3. 基礎演習 II の難しい点

3 のまとめ

前期に引き続き、グループワークへの参加に困難を感じていることがうかがえる。前期との相違点は、グループワークでのアウトプットにより焦点があること、「なし」と答えた学生が 8 人→1 人に減少したことである。

4. 大学の授業で必要なアカデミックスキル (選択式；複数回答可)

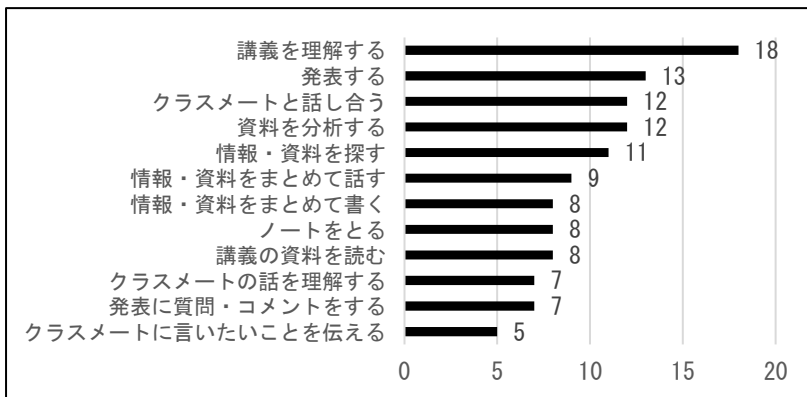


図 4. 大学の授業で必要なアカデミックスキル

4 のまとめ

前期に引き続き、講義理解、発表、ノートテイキング、情報収集・分析などのアカデミックスキルが重視されていた。一方、「クラスメートと話し合う」は後期で上位に挙げられたもので、PBL 型の基礎演習 II などで求められたスキルの影響がうかがえる。

5. アカデミックスキルに関する自己評価と理由

(5=とてもできる、4=できる、3=まあまあ、2=あまりできない、1=全くできない、わからない=NA)。

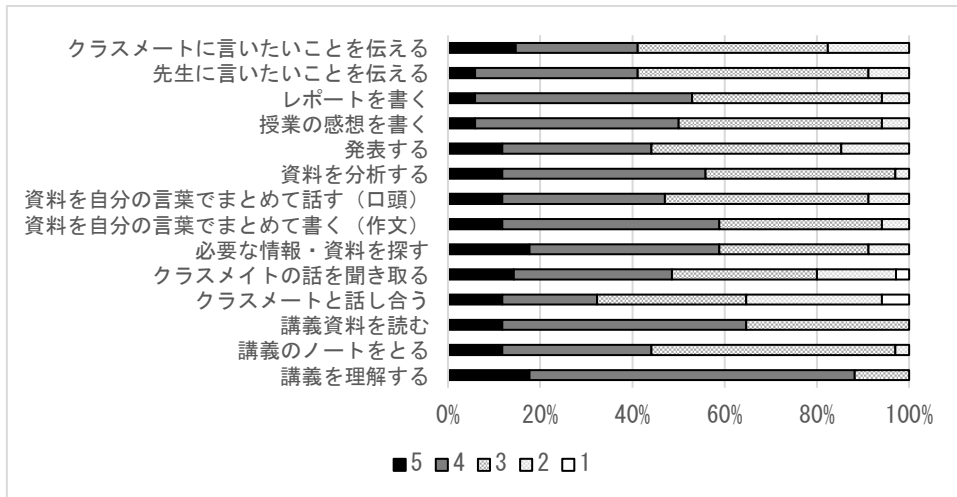


図 5. アカデミックスキルズに関する自己評価

5 のまとめ

前期同様、4 の項目で重視されていた講義理解は、自己評価が高かった。書く、読む、聞くに比べると、話すことの自己評価が低い。「クラスメートに言いたいことを伝える」「先生に言いたいことを伝える」「発表する」「資料を自分の言葉でまとめて話す」「クラスメートと話し合う」といった口頭でのアウトプットに 3 以下をつけた学生が半数以上で、前期と同様の結果だった。若干異なるのは、後期で「授業の感想を書く」の自己評価が若干上がったこと、「授業のノートをとる」の自己評価が下がったことである。



6. 大学入後の日本語の上達度に対する自己評価

(5=とても上達した、4=上達した、3=まあまあ、2=少しだけ上達した、1=変わらない)。

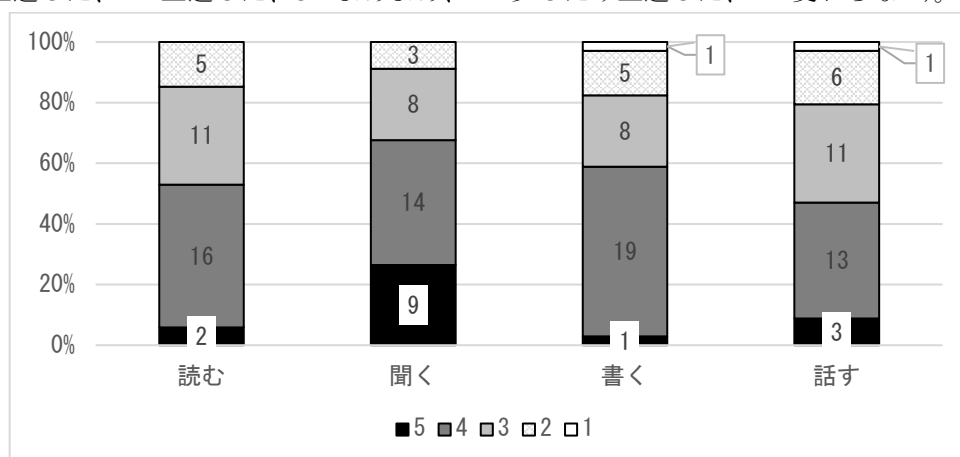
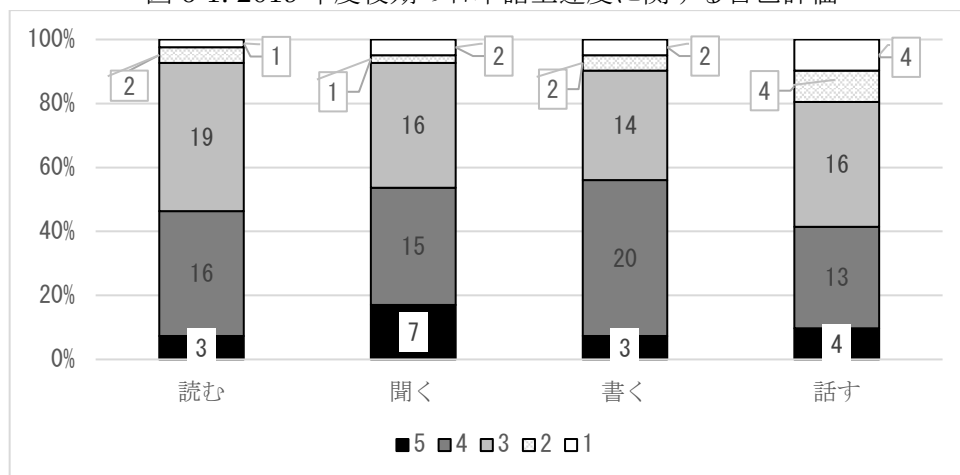


図 6-1. 2019 年度後期の日本語上達度に関する自己評価



【参考】 図 6-2. 2019 年度前期の日本語上達度に関する自己評価

自己評価の主な理由 ※カッコ内数字は自己評価、+は肯定的/-は否定的理由

読む	+	資料が大体理解できる (6)、読み資料が多くなった、難しい文章も読めるようになった 難しい文章を読む機会が多くなる
	-	苦手 (3)、努力が必要 (2)、漢字の読み方がわからない (2)、読む機会が多くなかった (2)、授業の資料を読むのが難しい
聞く	+	結構聞き取りができる (7)、先生の講義が大体わかる (3)、日常生活で日本人の話を聞き 取れる (2)、毎日日本語を聞いている (2)、日本人の友達がいるから上達した、授業 内容を聞く機会が多くなった
	-	難しい言葉は困る、背景を知らない難しい、話し合いが難しい、
書く	+	レポートの練習があったから (6)、結構できる (5)、自分のペースで書けるのであれば いい、話せることは書ける、自分の考えが書ける、書くことが一番好き
	-	レポートを書くのが難しい、文法が下手、練習をしなかった、漢字が書けない
話す	+	日本人と(授業、アルバイトなどで)コミュニケーションをとった(4)、知識が増えた、 発表でだいたい言いたいことが話せる(2)、自分の気持ちを入れて話せる
	-	話す時知らない言葉がある (2)、グループワークでなかなか意見が言えない、日本人学 生との議論が難しい、あまり話さなかったから、できなくて恥ずかしい

6 のまとめ

前期と比べると自己評価は全体的に上がり、特に「聞く」ことに上達を感じている。「聞く」や「話す」の自己評価理由を見ると、日本人との接触経験が自己評価を左右していることがうかがえる。他方、理由に漢字、文法、言葉（語彙）など日本語に関する記述が見られるのは、後期の特徴である。

7. 大学生活を送るために、向上させたい日本語力（主なものを抜粋）
- ・ グループディスカッションで意見が言えるようになりたい
  - ・ コメントや質問などを出すこと
  - ・ JLPT の N1
  - ・ ビジネス日本語
  - ・ 読むことと書くこと
  - ・ 文法
  - ・ 論理的に一貫性のあるレポートが書けるような日本語力を向上させたい
  - ・ 日本人学生とコミュニケーションするチャンスが欲しい
  - ・ 日本人と交流できる日本語
  - ・ 学校以外の日本人とコミュニケーションが取れる
  - ・ 日本人と話す時、外国人だと気付かれないレベル
  - ・ 日本語が自分の体の一部となって話せるようになること

#### 7 のまとめ

前期と同様に、日本人学生との交流、流暢さを挙げた学生が多い。「コメントや質問などを出すこと」といった自発的なアウトプットについては後期挙げられたものである。PBL 型の基礎演習 II などの影響が考えられる。

## 日本語力 自己評価シート

授業を始める前に、日本語の「読む力」「書く力」「聞く力」「話す力」について自己評価をしてみましょう。

今の自分の日本語力について、一番あてはまると思う番号を選んでください。

**【読む力】**

	カテゴリー	Can-do	全然 できない ← ← → → 問題なく できる					
			1	2	3	4	5	6
1	講義	講義の資料の内容を正確に理解することができる。	1	2	3	4	5	6
2	講義	講義の資料や専門書を速く読むことができる。	1	2	3	4	5	6
3	講義	レポートに引用するのに適切な文献を探することができる。	1	2	3	4	5	6
4	講義	講義の文献や資料の内容を批判的に読むことができる。	1	2	3	4	5	6
5	大学生活	大学からのお知らせや書類を問題なく理解できる。	1	2	3	4	5	6
6	大学生活	大学の掲示板を見て、必要な情報(例:講義や募集など)がとれる。	1	2	3	4	5	6
7	大学生活	敬語が使われている正式な手紙やメールの内容が理解できる。	1	2	3	4	5	6
8	大学生活	奨学金やインターンシップなどの情報を読んで、必要な情報が取れる。	1	2	3	4	5	6
9	メディア	政治、経済などについての新聞や雑誌の記事を読んで、要点が理解できる。	1	2	3	4	5	6
10	メディア	身近で日常的な話題についての新聞や雑誌の記事を読んで、内容が理解できる。	1	2	3	4	5	6
11	メディア	論説記事(例:新聞の社説など)を読んで、主張・意見や論理展開が理解できる。	1	2	3	4	5	6
12	メディア	人物の心理や話の展開を理解しながら、小説を読むことができる。	1	2	3	4	5	6
13	メディア	短い物語を読んで、だいたいのストーリーが理解できる。	1	2	3	4	5	6
14	メディア	SNSで関心のある記事などを読んで理解することができる。	1	2	3	4	5	6
15	日常生活	商品のパンフレットを見て、知りたいことがわかる。(例:商品の特徴など)	1	2	3	4	5	6
16	日常生活	知人や友人から来たはがき、メール、SNSのメッセージを読んで、理解できる。	1	2	3	4	5	6
17	全般	漢字の読みがわかる。	1	2	3	4	5	6

【書く力】

	カテゴリー	Can-do	全然 できない ← ← → → 問題なく できる					
			1	2	3	4	5	6
1	講義	講義の内容を自分の言葉でまとめることができる。	1	2	3	4	5	6
2	講義	適切な表現(書き言葉)でレポートを書くことができる。	1	2	3	4	5	6
3	講義	文献を適切に引用してレポートを書くことができる。	1	2	3	4	5	6
4	講義	適切な形式・構成でレポートを書くことができる。	1	2	3	4	5	6
5	講義	「問い」や「主張」が明解で論理的なレポートを書くことができる。	1	2	3	4	5	6
6	講義	PCを用いて、聴衆にとってわかりやすいPPTを作成することができる。	1	2	3	4	5	6
7	講義	講義についての意見や感想などを書くことができる。	1	2	3	4	5	6
8	講義	受け取る相手に配慮してコメントシートを書くことができる。	1	2	3	4	5	6
9	大学生生活	目上の知人(例:先生など)あてに、基本的な敬語を使って手紙やメールを書くことができる。	1	2	3	4	5	6
10	大学生生活	奨学金などの志望理由などを書くことができる。	1	2	3	4	5	6
11	公共・生活	予想していなかった出来事(例:事故など)の経緯と原因について説明する文章を書くことができる。	1	2	3	4	5	6
12	公共・生活	機械の使い方など、方法や手順を書いて伝えることができる。	1	2	3	4	5	6
13	公共・生活	自分にとって身近な話題(日常生活、家族など)について説明する文章を書くことができる。	1	2	3	4	5	6
14	公共・生活	友人にメールやSNSのメッセージを書くことができる。	1	2	3	4	5	6
15	全般	文法(動詞活用や助詞)が正しい文章を書くことができる。	1	2	3	4	5	6
16	全般	接続詞を効果的に使った文章を書くことができる。	1	2	3	4	5	6
17	全般	PCを用いて、日本語を入力する(タイプする)ことができる。	1	2	3	4	5	6

【聞く力】

	カテゴリー	Can-do	全然 できない ← ← → → 問題なく できる					
			1	2	3	4	5	6
1	指示理解	教師やアルバイト先の上司からの指示や説明を理解することができる。	1	2	3	4	5	6
2	講義理解	関心あるテーマの講義や講演を聞いて、だいたいの内容が理解できる。	1	2	3	4	5	6
3	講義理解	まったく知らないテーマの講義や講演でも、だいたいの内容が理解できる。	1	2	3	4	5	6
4	講義理解	講義の内容を理解し、ノートをとることができる。	1	2	3	4	5	6
5	講義理解	講義を聞いて、内容に関する質問に答えることができる。	1	2	3	4	5	6
6	クラス活動	日本語科目以外の授業で、クラスメイトの発言を理解することができる。	1	2	3	4	5	6
7	クラス活動	日本語での発表やディスカッションを聞いて、理解することができる。	1	2	3	4	5	6
8	メディア	日本語のドラマや映画を、字幕なしで理解することができる。	1	2	3	4	5	6
9	メディア	身近で日常的な内容のテレビ番組(例:料理、旅行、バラエティ)を見て、だいたいの内容が理解できる。	1	2	3	4	5	6
10	メディア	政治や経済などについてのテレビのニュースを字幕なしで見、要点が理解できる。	1	2	3	4	5	6
11	公共・生活	簡単な道順や乗り換えについての説明を聞いて、理解できる。	1	2	3	4	5	6
12	公共・生活	駅やデパートでのアナウンスや、町内放送を聞いて、だいたい理解できる。	1	2	3	4	5	6
13	公共・生活	店で商品の説明を聞いて、知りたいこと(例:特徴など)がわかる。	1	2	3	4	5	6
14	公共・生活	予想していなかった出来事(例:事故など)について、駅などで流れるアナウンスを聞いてほしい理解できる。	1	2	3	4	5	6
15	会話場面	身近で日常的な話題(例:趣味、食べ物、週末の予定)についての会話がほしい理解できる。	1	2	3	4	5	6
16	会話場面	フォーマルな場(例:歓迎会)でのスピーチを聞いて、だいたいの内容が理解できる。	1	2	3	4	5	6
17	会話場面	社会問題や時事的な話題など、日常的な話題以外の会話で、だいたいの内容が理解できる。	1	2	3	4	5	6

【話す力】

	カテゴリー	Can-do	全然 できない ← ← → → 問題なく できる					
			1	2	3	4	5	6
1	講義・ クラス活動	講義やクラスメイトの発表を聞いて、質問することができる。	1	2	3	4	5	6
2	講義・ クラス活動	講義で聞いた内容について、自分の意見や感想を話すことができる。	1	2	3	4	5	6
3	講義・ クラス活動	クラスのディスカッションで、自分の意見を相手に分かりやすく伝えることができる。	1	2	3	4	5	6
4	講義・ クラス活動	クラスのディスカッションで、相手の意見を聞き、それに対する自分の考えを話すことができる。	1	2	3	4	5	6
5	講義・ クラス活動	レジュメやパワーポイントなどの資料を示しながら、プレゼンテーションができる。	1	2	3	4	5	6
6	公共・生活	店で買いたいものについて質問したり、希望や条件を説明したりすることができる。	1	2	3	4	5	6
7	公共・生活	よく知っている場所の道順や乗り換えについて説明することができる。	1	2	3	4	5	6
8	公共・生活	予想していなかった出来事(例:事故など)の経緯と原因について説明することができる。	1	2	3	4	5	6
9	アルバイト	電話で遅刻や欠席の連絡ができる。	1	2	3	4	5	6
10	アルバイト	アルバイトや仕事の面接で、希望や経験を言うことができる。 (例:勤務時間、経験した仕事)	1	2	3	4	5	6
11	会話場面	身近で日常的な話題(例:趣味、週末の予定)について会話ができる。	1	2	3	4	5	6
12	会話場面	自分の送別会などフォーマルな場で短いスピーチをすることができる。	1	2	3	4	5	6
13	会話場面	友人や同僚と、旅行の計画やパーティーの準備などについて話し合うことができる。	1	2	3	4	5	6
14	会話場面	最近見た映画や読んだ本のだいたいのストーリーを紹介することができる。	1	2	3	4	5	6
15	会話場面	相手や状況に応じて、丁寧な言い方とくだけた言い方が使い分けられる。	1	2	3	4	5	6
16	会話場面	社会問題や時事的な話題など、日常的话题以外の会話で、質問したり、意見を言ったりすることができる。	1	2	3	4	5	6
17	全般	正しい発音で話すことができる。	1	2	3	4	5	6

【参考資料】

- ・ 日本語能力試験 Can-do 自己評価リスト <https://www.jlpt.jp/about/candolist.html>
- ・ JLPTUFS アカデミック日本語 Can-do リスト  
<http://www.tufs.ac.jp/common/jlc/kyoten/development/ajcan-do/>

## 巻末資料 3. 日本語 I・II (A レベル) チェックリスト

日本語 I ユニット I 「大学生活に慣れる」

### チェックリスト

日本語 I では、ユニットごとにチェックリストがあります。

このチェックリストには、各ユニットでの学習を通じて、身につけてもらいたい能力やスキルが書かれています。

ユニット終了後には、「できるようになったかどうか」を自分でチェックしてもらいます。

ユニット I 「大学生活に慣れる」

#### 理解 [読む・聞く]

1. 大学から届いたメールや資料を読み、問題なく理解できる。
2. 大学から届いたメールや資料を読み、必要な情報を手に入れることができる。
3. 教師の指示や説明を正確に理解し、適切に行動できる。

#### 産出 [書く・話す(発表)]

4. パソコンのキーボードで日本語を入力(タイピング)することができる。

#### コミュニケーション [話す(やりとり)]

5. 恥ずかしがらずに話すことができる。
6. 手続き等に関して、大学の職員に適切に質問や相談をすることができる。(感じのいい聞き方で)

#### スタディスキル

7. manaba の見方と使い方がわかる。
8. manaba 上の連絡・指示を理解し、適切な行動に移ることができる。
9. YGU メールや manaba 上の情報の重要性を知り、確認を習慣化できる。
10. 自分に合ったスケジュール管理、課題管理の方法を知り、実行を習慣化できる。
11. 分からないことは自分で調べたり、聞いたりできる。(適切な方法で、適切な相手に)
12. 目標を設定し、自律学修を進めることができる。

## チェックリスト

日本語 I では、ユニットごとにチェックリストがあります。  
このチェックリストには、各ユニットでの学習を通じて、身につけてもらいたい能力やスキルが書かれています。  
ユニット終了後には、「できるようになったかどうか」を自分でチェックしてもらいます。

### ユニット2「大学の授業に慣れる」

#### 理解 [読む・聞く]

##### <読む>

1. シラバスを読み、必要な情報を手に入れることができる。
2. 授業で配布・投影される資料を理解することができる。
3. わからない語彙があってもある程度推測しながら、限られた時間の中で配布された資料を読むことができる。  
(推測と速読)

##### <聞く>

4. 講義を聞き、内容を理解することができる。
5. 背景知識を持っていない、よく知らない内容の話でも、意味を推測して理解することができる。
6. 理解不能な部分を書き取り、教員やクラスメイトに確認を求めることができる。(話す・書くとの統合タスク)

#### 産出 [書く・話す(発表)]

7. 講義の内容を聞いて、メモやノートを作成することができる。
8. 授業のコメントペーパーを書くことができる。
9. 教員宛に適切なメールを書くことができる。

#### コミュニケーション [話す(やりとり)]

10. 講義で聞いた内容について、自分の意見や感想を話すことができる。
11. 教員に適切に質問することができる。

#### スタディスキル

12. 人に依頼するときのマナーを理解し、実践できる。
13. 分からないことは自分で調べたり、自分から質問したりできる。
14. 大学において必要となる IT スキル (office、メールでのやりとりなど) を身につける。



## チェックリスト

日本語 I では、ユニットごとにチェックリストがあります。

このチェックリストには、各ユニットでの学習を通じて、身につけてもらいたい能力やスキルが書かれています。

ユニット終了後には、「できるようになったかどうか」を自分でチェックしてもらいます。

### ユニット 3「専門入門書を読む」

#### 理解 [読む・聞く]

<読む>

1. 専門入門書の内容が理解できる。

<聞く>

#### 産出 [書く・話す(発表)]

2. 発表内容を簡潔に分かりやすくまとめた、レジюме・資料を作ることができる。
3. 書籍などから得られる知識を正しく理解したうえで、その内容を自分の言葉で他者に説明することができる。
4. レジюмеなどの資料を示しながら、相手に伝わるプレゼンテーションができる。
5. 自分が作成した資料の日本語表現を正確に読むことができる。(※漢字語彙の読み方、発音など)
6. 自信を持って堂々と発表することができる。

#### コミュニケーション [話す(やりとり)]

7. 自分の意思や考えを相手に分かりやすく伝えることができる。
8. 講義や発表を聞いて、質問することができる。
9. 講義や発表を聞いて、感想やコメントを相手に伝えることができる。(※伝え方に注意しながら)
10. 積極的聞き手として、ディスカッションなどのコミュニケーションに参加できる。

#### スタディスキル

11. 話の聞きかたのマナー(相手の話をしっかり聞こうとする態度)を身につける。  
    <例> 相手の目を見て聞く、体をその人のほうに向ける、あいづち・うなずき、確認 など
12. 自分から話を切り出すことができる。(受身の姿勢×)
13. グループワークの際、相手の気持ちに配慮した言動をとることができる。
14. 発表会やディスカッションの際、主体的に、楽しんで関わろうとする姿勢を持って参加することができる。

## チェックリスト

日本語 I では、ユニットごとにチェックリストがあります。

このチェックリストには、各ユニットでの学習を通じて、身につけてもらいたい能力やスキルが書かれています。

ユニット終了後には、「できるようになったかどうか」を自分でチェックしてもらいます。

### ユニット4「今後の大学生活をデザインする」

#### 理解 [読む・聞く]

<読む>

<聞く>

#### 産出 [書く・話す(発表)]

※4~6 は、ユニット3 から継続

1. 他者の発表に対し、適切にコメントを書くことができる。
2. 聴衆にとって分かりやすい PPT / スライド資料を作成することができる。
3. 発表で自分が伝えたいことを伝えることができる。
4. レジюмеや PPT などの資料を示しながら、相手に伝わるプレゼンテーションができる。
5. 自分が作成した資料の日本語表現を正確に読むことができる。(※漢字語彙の読み方、発音など)
6. 自信を持って堂々と発表することができる。

#### コミュニケーション [話す(やりとり)]

※すべてユニット3 から継続

7. 講義や発表を聞いて、質問することができる。
8. 講義や発表を聞いて、感想やコメントを相手に伝えることができる。(※伝え方に注意しながら)
9. 積極的聞き手として、ディスカッションなどのコミュニケーションに参加できる。

#### スタディスキル

※10・11 はユニット3 から継続

10. 自分から話を切り出したり、働きかけたりすることができる。(受身の姿勢×)
11. 発表会やディスカッションの際、主体的に、楽しんで関わろうとする姿勢を持って参加することができる。
12. 当事者意識を持って、今後の大学生活について考え、目標と行動計画を立てることができる。
13. 当事者意識を持って、今後の大学生活について考え、具体的な行動に移すことができる。
14. 目標を設定し、自律学習を進めることができる。
15. 将来や今後の大学生活のために、必要な情報を自主的に集めたり、調べたりできる。

## チェックリスト

日本語ⅡAでは、ユニットごとにチェックリストがあります。

このチェックリストには、各ユニットでの学修を通じて、身につけてもらいたい能力やスキルが書かれてあります。

ユニットの勉強が終わった後には、「できるようになったかどうか」を自分でチェックしてもらいます。

ユニットⅠ「これまでの大学生活をふりかえる」

理解 [読む・聞く]

産出 [書く・話す(発表)]

コミュニケーション [話す(やりとり)]

1. 相手の発表や発言を聞いて、質問することができる。

態度・スタディスキル

2. 自分の学修を多様な観点からふりかえることができる。
3. 自分の目標と行動計画を立てることができる。
4. 目標を設定し、自律学習を進めることができる。(日本語Ⅰのユニット4から継続)
5. 学びと将来の進路の接点を知り、考えることができる。

## チェックリスト

日本語ⅡAでは、ユニットごとにチェックリストがあります。

このチェックリストには、各ユニットでの学修を通じて、身につけてもらいたい能力やスキルが書かれてあります。

ユニットの勉強が終わった後には、「できるようになったかどうか」を自分でチェックしてもらいます。

### ユニット2「プロジェクト遂行を通して学ぶ(PBL)」

#### 理解 [読む・聞く]

<読む>

1. 日本語の資料やWEBサイトから必要な情報を手に入れることができる。

#### 産出 [書く・話す(発表)]

<書く>

2. 資料を分かりやすい言葉(留学生に伝わりやすい日本語)で作成することができる。
3. 他者の発表に対する適切なコメントをresponに入力することができる。

<発表>

4. 調べた情報を整理して、相手に伝えることができる。

#### コミュニケーション [話す(やりとり)]

5. 積極的にグループワークに参加し、自分の意見や考えを伝えることができる。
6. ディスカッションで、積極的な聞き手として応答できる。
7. グループワークで司会をすることができる。
8. 教職員・学外の方と適切にコミュニケーションをとることができる。

#### 態度・スタディスキル

9. 知りたいことや分からないことについて、自分で調べたり、自分から質問したりできる。
10. 他者と協働して課題を遂行することができる。

## チェックリスト

日本語ⅡAでは、ユニットごとにチェックリストがあります。

このチェックリストには、各ユニットでの学修を通じて、身につけてもらいたい能力やスキルが書かれています。

ユニットの勉強が終わった後は、「できるようになったかどうか」を自分でチェックしてもらいます。

### ユニット3 「これからの学びを知り、準備する」

#### 理解 [読む・聞く]

<理解>

1. 背景情報がなくても意味を推測して理解することができる。

#### 産出 [書く・話す(発表)]

<書く>

2. 教員等目上の人に適切なメールを書くことができる。
3. 講義・説明を聞いて、メモやノートを作成することができる。

<発表>

4. 新しく得た情報や知識を理解したうえで、他者に説明できる。
5. レジューメやPPTなどの資料を示しながら、プレゼンテーションができる。

#### コミュニケーション [話す(やりとり)]

6. 他者の発表を聞いて、質問することができる。
7. 他者の発表に対し、感想やコメントを伝えることができる。
8. 日本語でインタビューをして、相手から得たい情報を得ることができる。
9. 用意した質問だけ聞くのではなく、相手の答えに応じて会話を展開することができる。
10. 相手の話(+発表)をしっかり聞こうとする態度を身につける。

例:相手の話や発表を最後まで集中して聞く、相手の目を見て聞く、あいづち・うなずき、確認など

#### 態度・スタディスキル

11. 自分の興味関心について自己理解を進めることができる。
12. 自分の目標と行動計画を見直すことができる。
13. これまでの学びを整理・統合することができる。

巻末資料 4. 技能系科目シラバス・ルーブリック

**技能系科目シラバス**

**【日本語文法シラバス】**

到達目標	<p>1. 基礎的な文法知識を身につける。</p> <p>2. 自身の日本語使用における文法的正誤を判断し、修正することができる。</p> <p>3. 文法知識を実用的な文章の中で、適切かつ正確に使うことができる。</p> <p>4. 課題の提出に関して、自己管理することができる。</p>
回数	内容
1	オリエンテーション 実力確認作文
2	助詞
3	【小テスト1】 文頭と文末の呼応
4	【小テスト2】 て形と否定形
5	【小テスト3】 助詞「が」・「は」
6	【小テスト4】 名詞修飾
7	【小テスト5】 自動詞・他動詞
8	【小テスト6】 受身
9	【小テスト7】 使役・使役受身
10	【小テスト8】 授受表現
11	【小テスト9】 目的・可能・願望
12	【小テスト10】 結果・状態(る形・た形・ている形・ていた形)
13	【小テスト11】 「のだ」文の使い方
14	【小テスト12】 まとめの作文の執筆と推敲
15	まとめのテスト 授業振り返り

【日本語文法ルーブリック】

	評価基準				
	S 期待している 以上である	A 十分に 満足できる	B やや 努力を要する	C 努力を要する	D 相当の 努力を要する
①文法知識	基礎的な文法知識を正確に理解している。	基礎的な文法知識をほぼ正確に理解している。	基礎的な文法知識をある程度正確に理解している。	基礎的な文法知識があまり理解できていない。	基礎的な文法知識が全く理解できていない。
②文法知識の活用	文法的知識を活用し、正確な文章を書くことができる。	文法的知識を活用し、ほぼ正確な文章を書くことができる。	文法的知識を活用し、ある程度正確な文章を書くことができる。	文法的知識を活用することが難しく、正確な文章を書くことも難しい。	文法的知識が理解できておらず、正確な文章を書くことができない。
③自己推敲	自分が書いた文章の不適切な部分に気づき、適切に修正することができる。	自分が書いた文章の不適切な部分にある程度自分自身で気づくことができる。また、適切に修正することができる。	他者の支援を受けつつ、自分が書いた文章の不適切な部分に気づくことができる。また、ある程度適切に修正することができる。	他者の支援を受ければ、自分が書いた文章の不適切な部分に気づくことができる。また、他者の支援を受けても、修正することが難しい。	他者の支援を受けても、自分が書いた文章の不適切な部分に気づくことができる。また、他者の支援を受けても、修正することができない。
④自己管理	教師の指示を正確に把握したうえで、教師の指示にもとづき、授業で課されたすべての課題を締切を守って提出することができる。	教師の指示をほぼ正確に把握したうえで、教師の指示にもとづき、授業で課されたほとんどの課題を締切を守って提出することができる。	教師の指示を概ね把握したうえで、教師の指示にもとづき、授業で課された課題の多くを締切を守って提出することができる。	教師の指示を部分的に把握したうえで、教師の指示にもとづき、授業で課された課題の半数以上を締切を守って提出することができる。	教師の指示が把握できないため、教師の指示にもとづき、授業で課された課題を締切を守って提出することができない。

到達目標

合格ライン

## 【日本語コミュニケーションシラバス】

到達目標	<p>1. 教師やクラスメイトの発話を正確に理解し、適切に対応できる。</p> <p>2. 発表やディスカッションで使う表現を身につけ、実際に使うことができる。</p> <p>3. 大学生活において多様な人々と適切なスタイルを用いて文章および口頭でやりとりすることができる。</p> <p>4. 発話上の問題を特定し、修正することができる。</p>
回数	内容
1	オリエンテーション
2	初対面の人と会う 発音①母音と子音
3	講義に出席する 発音②日本語のリズム
4	相談する 発音③スラッシュリーディング
5	1分スピーチ導入 OJAD 紹介・練習 質問の仕方の練習 スピーチの練習
6	スピーチ発表 質疑応答 書類を書く
7	メール①メールの書き方／メールで依頼する 発音④名詞と形容詞のアクセント
8	前半のまとめ: 会話テスト1／ふりかえり
9	手伝いを申し出る 発音⑤動詞のアクセント
10	友人を誘う 誘われた時に対応する LINE コミュニケーション
11	お詫び 発音⑥文末イントネーション
12	お礼 メール②お礼状
13	ディスカッション
14	後半のまとめ: 会話テスト2／ふりかえり
15	まとめテスト 授業ふりかえり



【日本語コミュニケーションルーブリック】

	評価基準				
	S 期待している 以上である	A 十分に 満足できる	B やや 努力を要する	C 努力を要する	D 相当の 努力を要する
1) 反応力 (聴く・話す・ 行動する)	教師やクラスメイトの発話を正確に理解し、適切に対応できる。	教師やクラスメイトの発話をほぼ正確に理解し、ほぼ適切に対応できる。	教師やクラスメイトの発話がある程度理解し、ある程度対応できる。	教師やクラスメイトの発話をかろうじて理解し、かろうじて対応できる。	教師やクラスメイトの発話を理解できず、対応することができない。
2) 表現力 (話す)	発表やディスカッションの基礎を身につけ、実際に使うことが全く問題なくできる。	発表やディスカッションの基礎をほぼ身につけ、実際に使うことがほぼ問題なくできる。	発表やディスカッションの基礎をある程度身につけ、実際に使うことがある程度できる。	発表やディスカッションの基礎を最低限身につけ、実際に使うことが最低限できる。	発表やディスカッションの基礎を身につけておらず、実際に使うことができない。
3) 表現力 (やりとり)	大学生活において、相手に応じて適切な待遇表現や文法、語彙、発音を用いてやりとりをすることが全く問題なくできる。	大学生活において、相手に応じた待遇表現や適切な文法、語彙、発音を用いてやりとりをすることがほぼ問題なくできる。	大学生活において、相手に応じた待遇表現や適切な文法、語彙、発音を用いてやりとりをすることがある程度できる。	大学生活において、相手に応じた待遇表現や適切な文法、語彙、発音を用いてやりとりをすることがかろうじてできる。	大学生活において、相手に応じた待遇表現は選べず、文法、語彙、発音も間違いが多く、相手に伝わらない。
4) モニター力	発話上の問題を自分で特定し、自力で修正することができる。	発話上の問題をほぼ自分で特定し、ほぼ自力で修正することができる。	発話上の問題をある程度自分で特定し、ある程度修正することができる。	発話上の問題を指摘されれば特定でき、最低限の範囲で修正することができる。	発話上の問題を指摘されても理解できず、修正することもできない。

到達目標

合格ライン

## 【日本語語彙シラバス】

到達目標	1.知らない語にであったとき、その語の読み方・発音・意味を調べ、習得することができる。 2.活動の中で学んだ語を特定し、その文脈での意味・用法を理解することができる。 3.活動の中で学んだ語を使用して、やりとりすることができる。
回数	内容
1	1.オリエンテーション／基礎語彙の学び方について考える
2	ニュース テーマ①／語彙練習 L1
3	【小テストL1】 ニュース テーマ②／語彙練習 L2
4	【小テストL2】 ニュース テーマ③／語彙練習 L3
5	【小テストL3】 ニュース テーマ④／語彙練習 L4
6	【小テストL4】 プレゼンテーション／語彙練習 L5
7	【小テストL5】 プレゼンテーション／語彙練習 L6
8	【小テストL6】 社会問題について知る活動／語彙練習 L7
9	【小テストL7】 ニュース テーマ⑤／語彙練習 L8
10	【小テストL8】 ニュース テーマ⑥／語彙練習 L9
11	【小テストL9】 ニュース テーマ⑦／語彙練習 L10
12	【小テストL10】 プレゼンテーション／語彙練習 L11
13	【小テストL11】 プレゼンテーション
14	まとめのテスト／社会の問題を考える活動
15	授業ふりかえり

【日本語語彙ルーブリック】

	評価基準				
	S 期待している 以上である	A 十分に 満足できる	B やや 努力を要する	C 努力を要する	D 相当の 努力を要する
①学習能力	よく調べており、語の読み方・発音・意味も正確に覚えている。	よく調べおり、語の読み方・発音・意味をほぼ正確に覚えている。	よく調べており、語の読み方・発音・意味もある程度正確に覚えている。	十分には調べておらず、語の読み方・発音・意味も正解には覚えていない。	ほとんど調べてもおらず、語の読み方・発音・意味もまったく覚えていない。
②理解力	活動の中で学んだ語を特定し、その文脈での意味・用法を正確に理解することができる。	活動の中で学んだ語を特定し、その文脈での意味・用法をほぼ正確に理解することができる。	活動の中で学んだ語を特定し、その文脈での意味・用法をある程度理解することができる。	活動の中で学んだ語を特定し、その文脈での意味・用法をある程度理解しているが、不正確である。	活動の中で学んだ語を特定し、その文脈での意味・用法を理解できない。
③産出力	調べたことや自分の考えを伝える際に、語をその文脈にあわせて適切に使用することができる。	調べたことや自分の考えを伝える際に、語を文脈にあわせてほぼ適切に使用することができる。	調べたことや自分の考えを伝える際に、学習ツールなどのリソースを援用しながら、語を文脈にあわせてある程度適切に使用することができる。	調べたことや自分の考えを伝える際に、学習ツールなどのリソースを援用しながら、語を使用する文脈を意識してはいるが、適切に使用することが難しい。	調べたことや自分の考えを伝える際に、語を使用する文脈が意識されておらず、学習ツールなどのリソースを援用しても、適切に使用できない。

到達目標

合格ライン

## 執筆者紹介

プロジェクトリーダー（全体構想・枠組み設定担当）

齊藤 眞美                      グローバルラーニングセンター 教授/センター長

プロジェクトサブリーダー（主編集担当）

トンプソン 美恵子          グローバルラーニングセンター 特任准教授/副センター長

プロジェクトメンバー

河野 礼実                      グローバルラーニングセンター 特任講師

金 桂英                         グローバルラーニングセンター 特任講師

徳田 恵                         グローバルラーニングセンター 特任准教授

『国際共修のための語学教育：アカデミックな場面への参加を可能にする日本語授業の  
Can-do リスト 2021 2021 年度 GLC 事業計画重点項目 6 「YGU 全学横断型 Can-do  
プロジェクト」 成果報告書』

2022 年 3 月 31 日 発行

編集 山梨学院大学グローバルラーニングセンター「YGU 全学横断型 Can-do プロジェ  
クト」ワーキンググループ

発行 山梨学院大学グローバルラーニングセンター  
〒400-8575 山梨県甲府市酒折 2 丁目 4 番 5 号